

現在、消化器がんの6割以上が内視鏡手術によって切除されています。私がアメリカのメイヨークリニックに留学していた当時、まさにその研究が進められていて私もそのプロジェクトに参加しました。

その後、アカデミア発の技術として、ベンチャー企業が事業化へ挑戦することになり、私もその現場に立ち会い、起業家たちと仕事をすることができました。そして、メイヨークリニックで私が所属していたチームが「内視鏡的スリーブ状胃形成術」を見事開発。そこで、私は、日本でもその技術を導入したいと考えました。しかし、その認可がなかなか下りず、2020年ようやく実現しました。

留学直後にこのデバイスに出会ってから、実に15年の歳月が経っていました。

東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座担当教授

炭山 和毅

Kazuki Sumiyama

02 巻頭言

大学附属病院の在り方

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

巻頭特集 1

03

東京慈恵会医科大学 初代学長 金杉英五郎先生と慈恵

東京慈恵会医科大学附属病院 院長
耳鼻咽喉科学講座担当教授 小島 博己

Ongoing

05 01 教育

看護学科4年生「総合実習」に位置づけて実施する
**3大学(本学、宮崎大学、鹿児島大学)
連携看護学交換実習**

医学部 看護学科 教授 嶋澤 順子

07 02 研究

**LGBTの患者を診療する技能を測定する尺度
「日本語版LGBT-DOCSS」を開発**
～医療従事者に対する性の多様性の教育に活用しケアの質向上へ～

総合医科学研究センター 臨床疫学研究部
ポストドクトラルフェロー
金久保 祐介

09 03 診療

附属病院救命救急センター本格稼働

救急災害医学講座(危機管理・救命分野)
講座担当教授 田上 隆

Nursing

12

明日の看護教育を担う教育管理者の育成

公益社団法人東京慈恵会
教務主任養成講習会 佐々木 郁子

PDC から PDCA へ

13

**建学の精神(理念)および大学・大学院の目的・
使命の英訳版について**

東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学
内部質保証推進委員会委員長 柳澤 裕之

Information

15

**(仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センター
2026年1月リニューアルオープン**

17 News Flash

2024年

12月 第8回東京慈恵会医科大学・東京理科大学合同シンポジウム

2025年

1月 令和6年度 退任記念講義・退任記念挨拶並びに退任記念懇親会
2月 第1270回成医会例会「睡眠の謎に挑む～原理の追求から社会実装まで～」
筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構長 柳沢正史先生

学術情報センター 発表 同部 10-1

3月 令和6年度 医学部・看護学科卒業式

4月 令和7年度 新入職員就任式

令和7年度 医学部・看護学科入学式

第5回慈恵-Mayo Clinicジョイントシンポジウム開催

高木兼寛先生をしのぶ会開催

5月 【慈恵医大初】学生主体による国際交流プログラム「AMSEP」を開催
「忘れられない看護エピソード」最優秀賞受賞
晴海トリートメントクリニックへ東京消防庁消防総監から感謝状が贈呈されました

学術情報センター 発表 同部 10-1

6月 葛飾区との災害時における救急輸送業務に関する協定を締結しました
地域救急医療業務への貢献

穂坂デジタル副大臣が附属病院(本院)を視察されました

7月 東京慈恵会医科大学・東京理科大学共同シンポジウムを開催

2025年(令和7年)主な行事予定表(8月～12月)

JIKEI VIDEOS

26

専門医紹介動画のご紹介

Column

27

新任講座担当教授 紹介

New Organization

29 新たな組織の紹介

研究推進センター

センター長 志賀 剛

Topics

30

一般社団法人・慈恵医師会
創設70周年をむかえて

慈恵医師会会長 落合 和彦
(東京都医師会・理事)

31 Notice

- 大学公報(行事/公示/学事/訃報/東京慈恵会公報)
- 補助金・助成金
- 財務報告
- 生涯学習・公開セミナー等
- プレスリリース
- 院内表彰受賞者
- 寄付のお願い
- ガバナンス(行動憲章/行動規範)
- 医療連携窓口のご紹介



大学附属病院の在り方

学校法人慈恵大学
理事長 栗原 敏

2024年1月1日、16時10分、能登半島地震が発災して、未だに復興途上です。本学も今日に至るまで、大正12年9月1日に発災した関東大震災で被災したことを忘れることはできません。関東大震災では、大正天皇の即位を記念して建てられた御大典記念館という建物一棟を残して、本学の建物は全壊しました。

本学は大正10年に医学専門学校から私立医科大学に昇格し、金杉英五郎先生が初代学長に就任されました。金杉先生は本邦で初めて耳鼻咽喉科学講座を創設され、本邦の耳鼻咽喉科学の発展に尽くされました。関東大震災が発災した時、金杉学長はオーストラリアを視察外遊中で、帰国して本学の建物が壊滅したことを知ったのです。先生は衝撃を受けましたが、我々はすぐに立ち上がらなければならないと考え、教職員、同窓、学生諸君に、“これは災難ではない、我々に課せられた試練だ、立ち上がろう!”と呼びかけたと言われています。先生の言葉に呼応して、教職員、同窓、学生が復興に向けて力を結集したのです。その結果、大学本館が昭和7年に竣工し、大学は復興しました。金杉学長は、東京帝国大学のご出身でしたが、“私学にいるものは老いることが許されない”と言われ、常に、不断の努力が必要であることを強調されました。現在、社会の変革に伴い、医科大学の運営が厳しい局面を迎えています。金杉先生なら、なんとされるでしょうか。金杉先生については、小島博己教授が書かれていますのでご一読下さい。

本院の救命救急センターが本格的に稼働しています。東京都からの要請もあり、三次救急に対応できる体制を整えました。救急医学講座を救急医療分野と

危機管理・救命分野からなる救急災害医学講座に改編し、危機管理・救命分野の講座担当教授には田上隆先生を迎え、E-ICUの設置や初療室の拡大など機能強化を図りました。救急医療分野(武田聡教授)との役割分担を図ることで、患者さんに適切な対応が可能となり、また、スタッフ間の良好な関係も構築されつつあります。医師や看護師だけでなく、医療スタッフ全員が協力して、これまで大きな課題であった新たな救急体制が円滑に稼働することを期待しています。本院の救命救急センターで育成されたスタッフが将来的に分院の救急診療体制を補完、支援することも期待されます。

附属第三病院のリニューアルが順調に進捗しており、来年1月に開院が予定されています。まだ仮称ですが東京慈恵会医科大学西部医療センターになることが決まっています。名称については、いろいろな案がありましたが、本院から見て西部に位置する地域を医療圏と考えて西部医療センターとなりました。新型コロナウィルス感染症の流行により、患者さんの受診行動は変化し、大学附属病院の在り方が問われています。そのような中、東京慈恵会医科大学西部医療センターは、地域中核病院として輝いて欲しいと願っています。西部医療センターと後方支援病院、各医療施設、あるいはご自宅との連携を円滑に行うことにより、地域病院としての役割を果たすことによって、患者さんから信頼される病院になるものと期待しています。本学の財務を支える病院としても西部医療センターが期待されていることを忘れずに、その役割を果たして欲しいと願っています。

戦後の窮乏を耐え忍んで 大学の復興を目指した慈恵の偉人

東京慈恵会医科大学 初代学長

金杉英五郎先生と慈恵



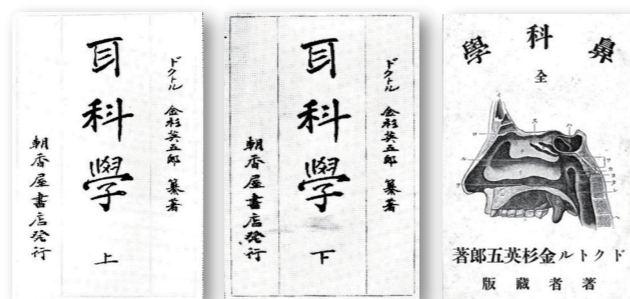
金杉英五郎先生
(昭和10年頃)

明治25年(1892年)9月、東京慈恵医院医学学校において世界初の耳鼻咽喉科学の講座が大学昇格後の本学初代学長 金杉先生によって開講された。さらに、大正12年9月1日の関東大震災で本学が壊滅的な被害を受けた際、学長として、何ともしも乗り越えるべく不屈の精神をもって本学をよみがえらせた。



東京慈恵会医科大学附属病院 院長
耳鼻咽喉科学講座担当教授
小島 博己

明治の初めは本邦でも欧州でさえも、耳科と鼻咽喉は別々の領域として扱われていた。しかし、耳、鼻、咽喉頭は互いに密接に関わりあい、病因や治療も重なる部分が多い。そのため、これらの領域を包括的に考えることは極めて重要な事項である。別々の学問として考えられていた時代にあつて、これらを耳鼻咽喉科として一つの領域とみなし、発展させた金杉の発想、実行力、功績は計り知れない。金杉は多くの専門図書も発刊した。



金杉英五郎先生著書「耳科学 上・下」「鼻科学」

1. はじめに

金杉英五郎先生(以下、金杉)は、本学の初代学長であり、本学耳鼻咽喉科学講座の初代教授でもある。また、世界で初めて耳科・鼻咽喉科を関連ある領域「耳鼻咽喉科学」として一つにまとめた偉大な耳鼻咽喉科医である。さらに医家出身の政治家の先駆けでもあり、学内にとどまらず日本全体の医学の発展にも大きく貢献した。

金杉は、慶応元年(1865年)に千葉県香取郡古城村籾木に生まれた。明治17年に東京医科大学(東京大学医学部の前身)別課に入学し、同21年に卒業、その年の11月に欧州へ旅立ち、その時代を代表するそうそうたる顔ぶれの大家に師事した。欧州で薫陶を受けた師の中には鼻出血の好発部位「キーゼルバッハ部位」で名を冠されている鼻科学の権威キーゼルバッハ教授もいる。非常に精力的に世界の最新の医学知識の獲得に努め、金杉は帰国の途についた。

2. 世界初の耳鼻咽喉科学の講義を行う

明治25年(1892年)4月にドイツから帰国した金杉は、本学の学祖 高木兼寛先生が経営する東京病院で耳科と鼻咽喉科の診療を開始すると同時に、同9月に東京慈恵医院医学学校において世界初の耳鼻咽喉科学の講座を開講した。これより以前の明治22年に、加古鶴所が博愛社で「耳鼻喉科」の名称で講義を行ったという記録があるが、断片的な内容にとどまっておろ、金杉の第1回目の講義こそが、世界で初めて「耳鼻咽喉科学」講座が開講された瞬間として知られている。

3. 学会の創設と発展に貢献

世界初の耳鼻咽喉科学の講義を行った翌年の明治26年2月、同志7名とともに、金杉は「東京耳鼻咽喉科会」を結成した。これが現在の日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の始まりである。その後、この会は発展して会名が「耳鼻咽喉科総会」として「大日本耳鼻咽喉科会」と改められた。そして明治26年の創設から第5回大日本耳鼻咽喉科会総会開催に至るまで、9年に及ぶ期間、金杉のもとで慈恵が総会開催を担当した。現在、耳鼻咽喉科頭頸部外科学の統括的な役割を果たしているのが「日本耳鼻咽喉科

頭頸部外科学会」であるが、その礎はこの時期に慈恵で築き上げられた。

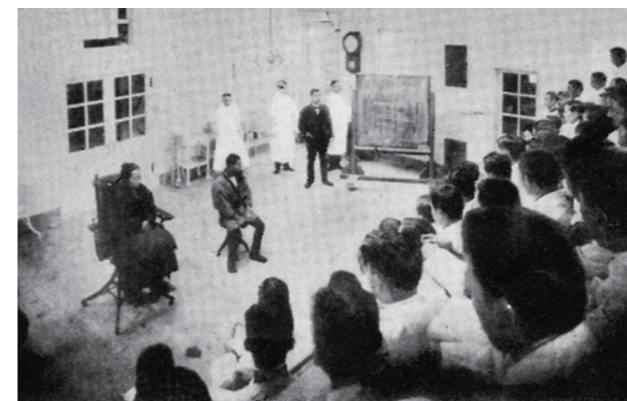
また金杉は学会創設と同時に「耳鼻咽喉科雑誌」を創刊し、これが現在の「日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報」の基礎となっている。

4. 慈恵を専門学校から大学へ

金杉が本学において耳鼻咽喉科学講座を開講した当時、本学は「東京慈恵医院医学学校」であった。明治36年に専門学校令が公布され、本学は「東京慈恵医院医学専門学校」となった。金杉は耳鼻咽喉科学の教授として熱心に学生の指導にあたった。学生の前で患者さんの診察を行っている臨床講義の当時の様子が、写真に残っている。



金杉先生の臨床講義(大正2年頃)



大正7年に大学令が公布されると、日本で最初の私立医学専門学校である本学においても大学昇格運動が盛り上がった。金杉も積極的に後援会設立、寄附金の募集、施設や設備の充実をはかるなど、高木とともに精力的に社会活動を行った。その努力が実り、大正10年に本学は「東京慈恵会医科大学」として認可された。初代学長には、大学昇格に尽力した金杉が就任し、その後21年間、学長として大学の発展に尽くした。

また、金杉は北里柴三郎、後藤新平とともに、当時の医家出身の三政治家の一人でもあり、衆議院議員、貴族院議員を務めながら国民衛生のために活動し、結核予防法や健康保険法などの改正にも尽力した。

5. 慈恵は不死鳥のごとく ～震災からの復興～

大正12年9月1日、関東大震災が起きた。本学は大学昇格にあたり施設などに多額の費用をかけたばかりであったが、震災により壊滅的な被害を受けた。資金面のみならず精神的なダメージも相当のものであったと推察される。金杉は貴族院の指示で豪州の視察中であつたが、急遽帰国し復興のために奮闘、その甲斐あって、わずか2か月弱で本学は授業を再開した。廃墟同然の校庭で行われた始業式で、金杉は「校舎、設備はことごとく焼け失せたといっても、慈恵40余年の伝統と精華は少しも揺るぎません。学長以下当事者は今や鋭意復興に努めつつあります」と述べ、列席者はその言葉に奮起したという。慈恵が大学に昇格した直後に直面した未曾有の危機に、金杉は初代学長として、何ともしも乗り越えるべく不屈の精神をもって再興を指揮し、本学をよみがえらせた。昭和8年に行われた創立50年記念式および新校舎の落成式は、完全復興を象徴するかのよう到大変盛大に行われ、約2,000人が祝典に参会し、空には祝賀飛行隊が飛来したそうである。

慈恵が震災からよみがえり、医科大学として一気に羽ばたいたのを見届けて、金杉は昭和17年1月26日、享年76歳でその生涯を終えた。



震災前(東京慈恵会医院)



関東大震災による被害(東京慈恵会医院)

6. 金杉の精神をうけついで

金杉が生きた明治～戦前の日本の医学界は、社会情勢、震災、戦争など、現代では考えられない厳しい状況下にあつたが、金杉は患者のため、慈恵のため、日本のために生涯を捧げ成果を残した。現代においても医師の道は決して楽ではなく、医科大学や病院の将来も厳しいものが垣間見えるが、一方で、信念を持って尽くせば、それだけやりがいが見いだせる世界でもある。そのことを、慈恵人として生涯をかけて物事を成し遂げた金杉の人生から学びとることが、後輩である私たちに金杉が託したかったことであると思う。

医学部
看護学科 教授
嶋澤 順子



看護学科4年生「総合実習」に位置づけて実施する 3大学(本学、宮崎大学、鹿児島大学) 連携看護学交換実習

3大学連携看護学交換実習の概要

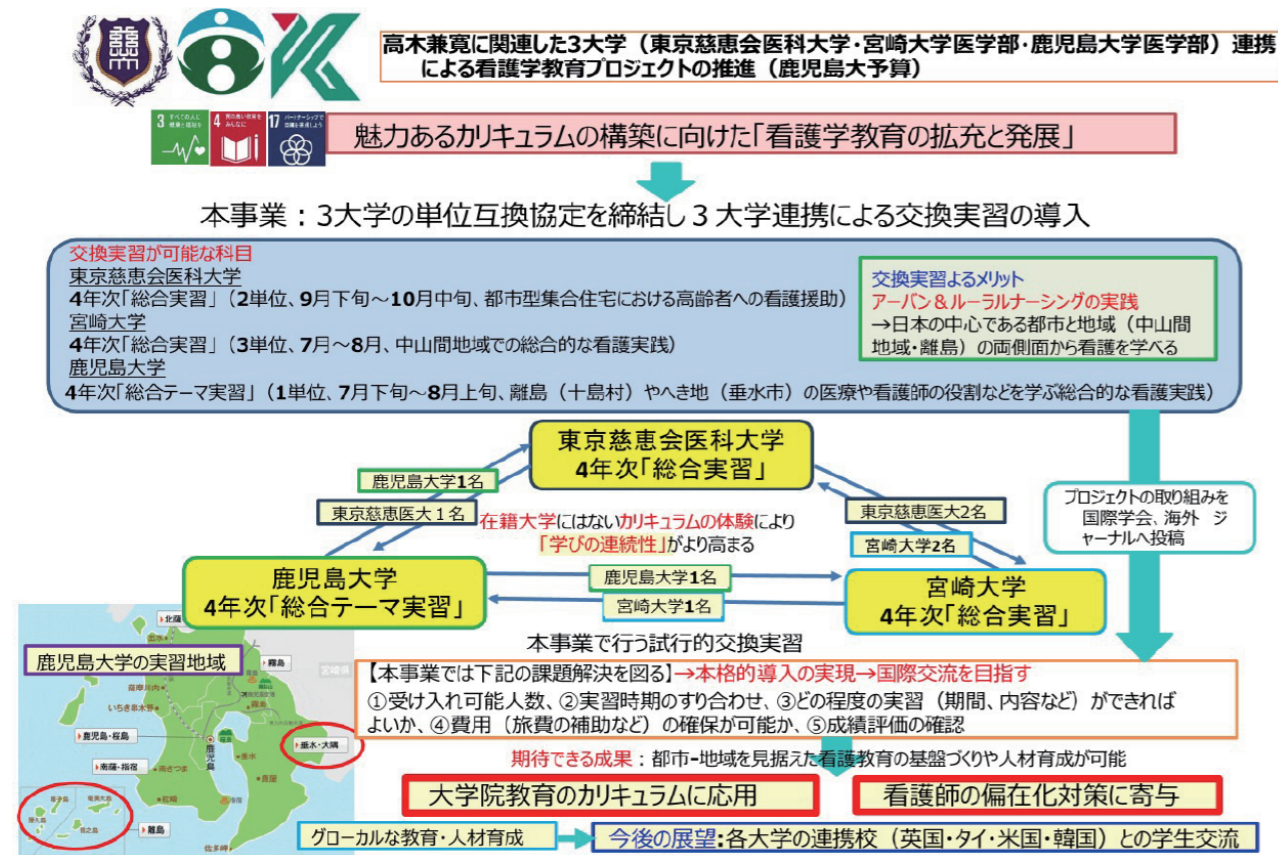
2023年度から学祖高木兼寛先生に関連した3大学(東京慈恵会医科大学・宮崎大学医学部・鹿児島大学医学部)連携による看護学教育プロジェクトが推進されている。具体的な活動として、看護学交換実習を各大学看護学科、保健学科4年生総合実習に位置づけて実施している。名称は「3大学連携看護学交換実習」である。(参照 図3 大学連携による看護学教育プロジェクトと連携看護学交換実習の概要)実施方法は、2023年度、2024年度は各大学

1名が、2025年度は各大学1-2名がそれぞれ他の2大学の総合実習に参加するというものである。(参照 表 2023年度-2025年度3大学連携看護学交換実習 実習場所と期間)

表 2023年度-2025年度3大学連携看護学交換実習 実習場所と期間

年度	慈恵医大	宮崎大学	鹿児島大学
2023年	調布市染地多摩川住宅	宮崎県宮崎市ホームホスピス宮崎かあさんの家	鹿児島県鹿児島郡十島村(吐噺列島 中ノ島)
2024年	調布市染地多摩川住宅	宮崎県東臼杵郡椎葉村	鹿児島県熊毛郡種子町(種子島)
2025年	調布市染地多摩川住宅	宮崎県東臼杵郡椎葉村	鹿児島県大島郡与論町(与論島)

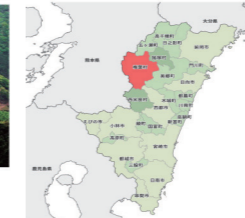
図 3大学連携による看護学教育プロジェクトと連携看護学交換実習の概要



宮崎大学実習 宮崎県椎葉村

椎葉村の特徴—なぜ椎葉村で学ぶのか—

- ・宮崎県の北部、九州山地中央部に位置
- ・村としては全国第5位の面積を有する
- ・人口は約2,500人
- ・全体が九州山地中央部の山々に囲まれる
- ・可住地面積は村域の4%
- ・川沿いや、山の主に中腹域の緩斜面に集落が存在



https://www.kyuden.co.jp/miraito_2020-winter_shunkantabi.html

宮崎県東臼杵郡椎葉村

東京慈恵会医科大学医学部看護学科における 3大学連携看護学交換実習

本学当学科では地域看護学領域が担当する「総合実習 行政看護コース」の実習に宮崎大学、鹿児島大学からの学生(各大学において学生の希望により選定される)が参加する。「総合実習 行政看護コース」は、都市型集合住宅における「みんなの保健室」を学生たちが運営し、住民の健康チェックや健康に関する相談を受けたり地域の住民活動に参加したりするという内容である。都市型集合住宅における「みんなの保健室」で行う総合実習は、2017年9月に第1回目を実施以来2025年9月の実施で9年9回目となる。国領キャンパスが所在する調布市には、1960~1970年代に建設された大型の集合住宅が複数あり、そのいずれもが、50~70%の高い老年人口割合であることが特徴である。

大学国領キャンパスから徒歩10分程度の位置にある多摩川住宅は、1966年竣工、300~700世帯5ブロック(各5階建て12~16棟)から成る。緑豊かな敷地にゆったりと配置された住宅群に、居住年数の長い住民の方々が地区に愛着を持って暮らしている。看護学科地域看護学の私たちは、2012年以来、住宅のボランティアグループメンバー、住宅自治会の方々との交流を持ち、住宅自治会が取り組む“高齢者のゆるやかな見守り活動”(住民互助の様々な活動を展開)に教員の地域貢献、研究活動、授業への協力を通じて参加している。その経過の中で多摩川住宅住民からの要望に基づき生まれたのが「みんなの保健室」である。「みんなの保健室」は、日々の暮らしの中でちょっと気になる健康上の疑問や不安を相談できる場を創って人々の健康を看護の力で予防的に支えることを目的としている。学生の学びの機会にもなるよう、4年生の総合実習に位置づけて活動を開始した。(2017年初年度は、第6回 杉浦地域医療振興助成(活動分野)を受けて開催)2019年度からは、慈恵医大JANPセンター「みんなの保健室部門」としても開催している。

鹿児島大学実習 与論島

鹿児島県に最南端にある与論島は、沖縄本島まで約3kmと近く、歴史の流れから薩摩と琉球両方の影響を受け、島独自の伝統芸能が見られる。鹿児島市から南へ590キロメートルの位置にあり、面積20.56平方メートル、海拔延長(周囲)23.7キロメートル



提供：一般社団法人ヨロン島観光協会

慈恵医大実習地 多摩川住宅



2023年度からは、3大学連携看護学交換実習をこの「みんなの保健室」で開催することになった。学生たちは、調布市染地地区にある多摩川住宅で暮らす住民との交流を通し、都市型集合住宅という地区特性、人々のつながりの中での健康生活の在りようを実感しながら、地域における看護専門職の役割や可能性を探求する。宮崎大学、鹿児島大学から参加する学生と協働して行う実習体験を通して、異なる地域に所在しながらも教育理念に共通項をもつことで繋がった大学の学生間で知の交流を行うことは、仲間と深く考え抜く楽しさを体験し学ぶ場となっていると考える。また、この体験は、他者とのパートナーシップ、リーダーシップを涵養するプロセスにもなっていると確信する。宮崎大学総合実習での山間地域(椎葉村)、鹿児島大学総合実習コースでの離島(与論島)における実習でも同様に、地域特性に即した地域住民の健康活動を支援する看護活動を深く探求し、他大学学生との交流を通じた人間性の成長にもつながっている実績をみる事ができている。

今後の展望

開始以降2年間の評価は、学生からの評価結果、担当教員間の情報交換(3大学連携による看護学教育プロジェクト会議の開催/年間3回、高木兼寛シンポジウムにおける看護学教育懇談会)により行っている。今後も3大学間の協議を継続し、本実習実施の意義を継続的に評価し、実習予算獲得の持続、外部発信、大学院教育カリキュラムでの応用などによる発展が重要であると考えている。

総合医科学研究センター
臨床疫学研究部
ポストドクトラルフェロー
金久保 祐介



LGBTの患者を診療する 技能を測定する尺度 「日本語版LGBT-DOCSS」を開発

～医療従事者に対する性の多様性の教育に活用しケアの質向上へ～

医療現場における 性的マイノリティの困りごと

性的マイノリティの人々は、調査方法にもよりますがおよそ人口の数%～10%と言われています。患者にも職場の同僚にも、性的マイノリティの人々は一定数いるのですが、可視化されにくいことでないものとされてしまったり、周縁化されてしまうことで不利益を被ったりすることが医療現場でさえあります。例えば、ある患者が緊急入院となった際、共に暮らしている同性パートナーと面会したい、一緒に病状説明をしてほしいと主治医に伝えても「法律上の親族ではないから許可できない」と言われてしまう事例があります。また、トランスジェンダーの患者が、見た目と戸籍上の性別にギャップがあるために何度も本人確認をされたり、呼ばれたくない戸籍名で大声で呼ばれて嫌な思いをしたりといったケースもあります。これは特殊な例ではなく、日本の調査でトランスジェンダーの約半数が医療機関を受診した際に不快な経験をしたり受診をためらったりしたことがあると答えています。このように日本においても性的マイノリティの人々は健康格差を経験しやすく、特にメンタルヘルスの問題や、医療へアクセスすること自体に障壁を感じていることが大きな問題です。

医学教育の不足と 臨床能力評価尺度の必要性

こうした問題の背景には医療者自身の知識や経験の不足もあります。医学教育や看護教育のモデル・コア・カリキュラムでは性的指向や性自認といった性の多様性の理解を学修目標として掲げているものの、実際には十分な教育が

なされていないことが指摘されています。教育には評価が不可欠ですが、医療従事者が性的マイノリティの患者をケアする際の臨床技能を評価する日本語尺度が存在しないことがその一因と考えられました。海外にはこうした目的の尺度が存在し、中でもBidell氏によって開発されたThe Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender Development of Clinical Skills Scale (LGBT-DOCSS)は既存の尺度を改良したものであり、すでに信頼性・妥当性が確立されていました。そこで私たちは、日本語で利用可能な医療従事者のための評価尺度「日本語版LGBT-DOCSS」を作成し、その信頼性・妥当性を検証することを目的としました。

日本語版LGBT-DOCSSの開発と 信頼性・妥当性の検証

本研究は、米国で開発された性的マイノリティの患者をケアする際の臨床能力評価尺度であるLGBT-DOCSSをもとに日本語版を開発し、その信頼性・妥当性を検証した尺度開発研究です。医師・歯科医師・看護師・薬剤師・心理職といった医療従事者が研究対象となりました。

まず、尺度翻訳のガイドラインに則り、文化的・言語的な違いを踏まえつつ英語版尺度を日本語に翻訳しました。まず英語版を和訳し、研究者間で言葉づかいや表現を調整して試作版(日本語)を作成しました。次に、試作版を英語に逆翻訳し、もとの意味と大きな乖離がないか原著者のチェックを受けました。実際に医療従事者8名に試作版に回答してもらった上で個別にインタビューをし、日本語版尺度として意味・内容や文化的に表現の修正が必要な部分があるかどうかを確認しました。「尺度の冒頭に説明を入れた方がよい」「日本でまだ馴染みのない言葉には注釈を

表1. 日本語版LGBT-DOCSSの質問項目例

下位尺度	項目	選択肢
態度	トランスジェンダーの人々は、道徳的に逸脱していると私は思う。	1:全くそう思わない～ 7:とてもそう思う
基礎知識	レズビアン・ゲイ・バイセクシュアルの人々が、異性愛者の人々と比べて不当なほど多くの健康問題やメンタルヘルスの問題を経験しているという調査を私は知っている。	1:全く知らない～ 7:とてもよく知っている
臨床的準備	臨床現場において、私はレズビアン・ゲイ・バイセクシュアルの人のアセスメントをする能力があると感じる。	1:全くそう思わない～ 7:とてもそう思う
臨床トレーニング	私は、トランスジェンダーのクライアントや患者を担当するための適切な臨床でのトレーニングや指導(スーパービジョン)を受けてきた。	1:全くそう思わない～ 7:とてもそう思う

※合計18項目につきリッカート7段階の選択肢で回答する。

つけた方がよい」などの指摘を踏まえて修正版(日本語)を作成しました。これを再度英語に逆翻訳し、原著者にもとの英語版と内容の齟齬がないことを確認してもらい、最終版(日本語)としました。

続いて、作成した日本語版尺度の信頼性・妥当性の検証を行いました。完成した日本語版尺度を含む質問紙を2022年7～8月にオンラインで研究対象者(医療従事者)に配布し、381件の有効回答を得ました。解析の結果、英語版尺度は「態度」「基礎知識」「臨床的準備」の3因子構造を有していましたが、日本語版の尺度は原版の「臨床的準備」のうち2項目が独立し、臨床トレーニングの程度を反映していたため、「態度」「基礎知識」「臨床的準備」「臨床トレーニング」の4因子構造としました。

さらに、内の一貫性(尺度を構成する質問項目同士がどれだけ関連しているかの程度)や再検査信頼性(一定の期間をあけても同じ人が同じような回答をする程度)といった尺度の信頼性も十分高いことが示されました。

加えて、日本語版LGBT-DOCSSと関連すると考えられる既存の別の尺度(レズビアンやゲイに対する否定的な態度を測定する尺度、トランスジェンダーに対する偏見の態度を測定する尺度、権威主義・慣習主義の程度を測定する尺度)との関連が強く、関連しないと考えられる既存の別の尺度(社会的望ましさを測定する尺度)との関連が弱いこともわかりました(収束的妥当性・弁別的妥当性)。

また、年齢が若い方が「態度」下位尺度の得点が有意

用語説明

用語	意味
LGBT	Lesbian, Gay, Bisexual, Transgenderの頭文字を取った語。性的マイノリティ全体を指す用語としても用いられる。
性的指向	どのような性の人に恋愛愛的・性的に惹かれるかを意味する語。
性自認	自分自身の性をどのように認識しているかを意味する語。
トランスジェンダー	出生時に割り当てられた性別とは異なる性自認をもつ人。
シスジェンダー	出生時に割り当てられた性別と同じ性自認をもつ人。

に高い一方で、年齢が高い方が「臨床的準備」の得点が有意に高い結果でした。シスジェンダーで異性愛者の方は、性的マイノリティの方に比べて尺度全体と各下位尺度において有意に得点が低い結果でした。一方で、シスジェンダーで異性愛者の方の中でも、同性愛者の同僚や友人・親戚・家族の存在、トランスジェンダーの友人・親戚・家族の存在に気づいている人たちは、気づいていない人たちに比べて高い得点を示す傾向にありました(既知集団妥当性)。以上により、尺度の妥当性も十分高いことが様々な側面から示されました。

今後の応用・展開

日本語版LGBT-DOCSSは、性的マイノリティの患者をケアする上での自己評価や振り返りに利用することができ、効果的な学習・研修や教育プログラムの開発につながることができます。医療現場でも本尺度や教育が普及し、アライ(図1)な医療従事者、医療機関が増えていくことが今後の目標です。



図1:アライバッジ

性的マイノリティのシンボルである6色の虹に「支援者」を意味するALLY(アライ)の文字を付したバッジ。このようなレインボーのグッズを身につけたり、レインボーフラッグを掲げたりすることで、アライであることを表現できる。

参考文献

- 1) Bidell MP. The Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender Development of Clinical Skills Scale (LGBT-DOCSS): Establishing a New Interdisciplinary Self-Assessment for Health Providers. J Homosex. 2017;64(10):1432-1460.
- 2) Kanakubo Y, Sugiyama Y, Yoshida E, Aoki T, Mutai R, Matsushima M, Okada T. Development and validation of the Japanese version of the Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender Development of Clinical Skills Scale. PLoS One. 2024 Mar 27;19(3):e0298574.

救急災害医学講座(危機管理・救命分野)
講座担当教授
田上 隆



附属病院救命救急センター本格稼働

2025年3月、東京慈恵会医科大学の救急医学講座は「救急災害医学講座」として再編され、より発展的な組織体制のもと、新たな一歩を踏み出しました。新講座は、「救急医療分野(教授:武田聡)」と「危機管理・救命分野(教授:田上隆)」の二分野から構成され、理念・教育・診療・研究の基盤を共有しながら、有機的に連携することで、慈恵医大4病院における高度救急医療の拡充と機能強化を目指しています。

附属病院は2023年3月に、東京都より救命救急センターとしての認定を受け、2025年にはEICU(Emergency ICU:救命センター集中治療室)の本格稼働、病院救命士の配置、そして初療室の手術室化といった複数の取り組みが動き出し、センターの診療機能は一層充実しました。本稿では、2025年春から夏にかけての主要な進展について報告いたします。

EICUの稼働と診療体制の進化

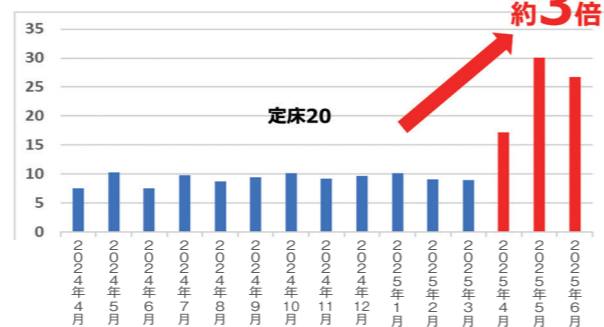
2025年3月に本格稼働を開始したEICU(6床)は、専従医師、看護師、救急救命士、臨床工学技士、放射線技師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種が一体となったチーム医療を展開し、重症患者に対する救急・集中治療の質的向上を実現しています。特筆すべきは、ダブルボード(救急専門医+外科・脳外科等)を有する医師の増員であり、田上教授、河野医師、吉野医師ら外科専門医、渡邊講師は脳神経外科専門医を有しています。それに加え、整形外科講座からは3名の高度外傷班医師が、脳神経外科講座からは1名の医師が救急科に出向しています。さらに博士号を有する救急救命士の参画により、体制の厚みが増しています(図1)。

EICUには、外傷・敗血症・心肺停止蘇生後症候群・多臓器不全など、多岐にわたる重症症例が日常的に搬送されており、迅速な初期対応から集中的な全身管理までを一貫して行える体制が整備されています。初療での緊急手術後、そのままEICUで継続管理が可能な「初療→手術・処置→集中治療」という連続性ある診療モデルも定着しつつあります。

【図1】救命救急センターのメンバー



【図2】救急科入院患者数の推移



稼働状況としては、4月・5月・6月においてそれぞれ稼働率97.2%、108.1%、107.8%を記録しており、常時満床に近い状況が続いています。今後、病床数の増設も検討されています。

EICUでの治療を終えた後も、多くの患者さんはそのまま救急科にて、4E病棟を中心に入院を継続しています。2025年4月以降は、手術や集中治療を要する重症患者の増加に伴い、救急科の1日平均入院患者数が急増しています。図2が示すように、過去1年間の平均と比較して約3倍の水準に達し、25-35名の入院患者を常時担当しております。

緊急手術件数の変化

2025年4月から6月までの3か月間において、救急科医師が術者で実施した手術件数は合計125件にのぼりました。これは、当センターの体制が本格的に稼働して以降、

救命救急領域における外科的介入の需要が急激に増加していることを如実に示す数字です。内訳としては、中央手術室での緊急・準緊急手術が89件、さらに、初療室またはEICU内で実施されたベッドサイド手術が36件を占めています。ベッドサイド手術の症例には、手術室が満床な場合や、患者さんのバイタルサインが不安定で手術室までの移動に耐えられない重症例などがあげられます。このような従来の診療フローでは対応が困難であったケースに対しても、迅速かつ柔軟に対応できる体制が整いつつあります(図3)。また、救急科自らが全身麻酔を実施し、手術を完遂する例もあり、診療の柔軟性と即応性が大きく向上しています。

【図3】現在の救命救急センター初療室での手術の様子



このような診療の実現には、麻酔部・手術部の多大なる協力とバックアップ体制、そして救急部・EICUの看護師の協力の下で成り立っております。

手術内訳で多いのは、整形外科外傷および腹部外傷・急性腹症に対する緊急手術です。これらの症例は、地域の救急隊や近隣医療機関から「手術が可能な施設」として当院が積極的に紹介・搬送されている状況にあります。

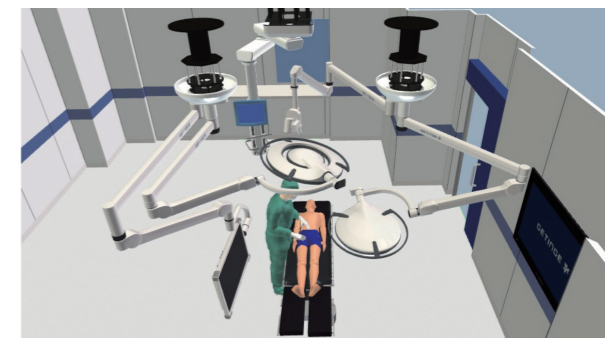
また、手術部・麻酔部門との連携体制の強化により、外科専門医・整形外科医・脳外科医がOne teamで手術にあたり、術前術後管理を含めた総合的なチーム医療が浸透しています。今後も、より多くの重症患者の命を救えるよう、救命救急センターとしての体制をさらに強化するとともに、地域の救急隊および紹介元医療機関との連携をより一層深め、「いざという時に頼れる救命の砦」としての役割を果たしてまいります。

初療室の手術室化と文部科学省採択事業

本学は、文部科学省の「高度医療人材養成事業(大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化)」において、全国73大学の応募の中から採択された27大学のひとつとして選定されました(うち私立大学は5校のみ)。本事業の採択により、救命救急センター初療室の「手術室化」および「DX連携」が、着実に実現へと進んでいます(補助金交付決定額:159,143,000円)。

従来、初療室は簡易的な処置空間として活用されてきましたが、今後は来院時心停止症例に対するECPR(体外循環式心肺蘇生法)や重症外傷症例に対するダメージコントロール手術が実施可能な、手術室仕様の高機能空間として再構築される予定です。麻酔器、無影灯、Cアーム透視装置の整備に加えて、Joinを活用した遠隔支援システムや、VR技術を用いた教育コンテンツの導入も計画されています(図4)。

【図4】2025年10月から稼働する初療室



これにより、手術室の稼働状況に左右されることなく、初療・蘇生・緊急手術・集中治療に至るまでを、一貫して提供できる新たな体制が、2025年10月より本格稼働を迎える予定です。来院時心停止、多発外傷や出血性ショック症例をはじめ、絞扼性腸閉塞や重症頭部外傷など、まさに「時間との戦い」が鍵となる症例に対して、初動の質とスピードの両面で優位に立つ戦略が可能となります。

また、本取り組みを通じて、こうした高度な急性期医療を担うことのできる次世代の人材育成にも注力してまいります。大学病院としての使命を果たしつつ、救命救急の最前線から、教育・診療・研究の質的向上を目指してまいります。

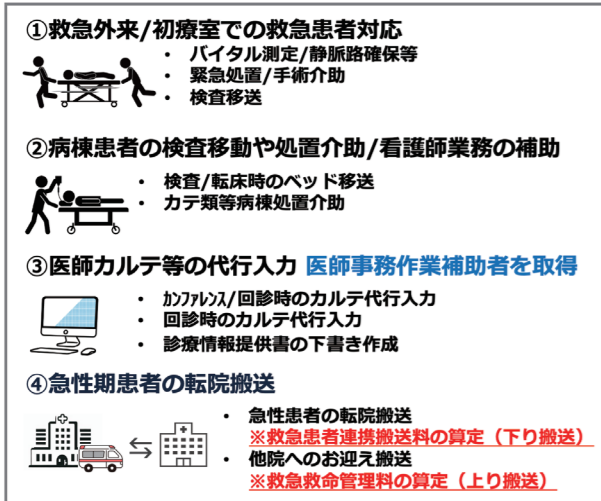
救命救急士の配置と新たな役割

2025年3月より、病院内において救急救命士の正式配置が開始されました。これにより、プレホスピタルと院内初期対応との連携が一層円滑となり、加えて、救急診療に関わる一部業務のタスクシェアが進められています(図5)。

本院に赴任した北野信之介氏は、救急救命士としての高度な臨床能力に加え、博士号を有し、臨床・教育・研究の各領域で指導的な役割を担える人材です。全国初の医学部助教としての救命士採用事例であり、今後の新たな職能モデルとして注目されています。

さらに、北野氏は医師事務作業補助者の資格も取得しており、紹介状の作成や診療オーダーの代行入力など、診療支援業務にも積極的に従事しています。現在はEICUや初療室において、診療補助、診療記録の補助を行うほか、シミュレーション教育の設計・運営、臨床研究の統計解析等にも関わっており、多面的な役割を果たして

【図5】救命救急士のタスクシェア



者に対し、三次救命救急センターである会津中央病院がドクターカーを出動させ、現地で高度治療を開始しながら搬送を行う体制は、「地域全体で救命に挑む」モデルケースといえるでしょう。

私たち東京慈恵会医科大学附属病院救命救急センターも、こうした成功事例に倣い、同様のシステムを東京で実現することを目指

しています。これらの活動は、教育・研究体制との連携をより深化させるうえでも、大きな可能性を秘めています。

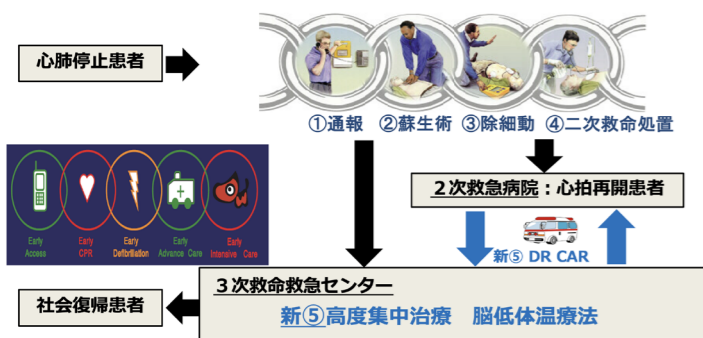
また、院内のみならず、近隣医療機関との病棟連携業務においても中心的な役割を担っており、救急医療の質と効率性の向上に大きく貢献しています。

病院間連携の活性化

重症患者の治療において、単一の医療機関のみで完結させることはますます困難となっており、地域全体を視野に入れた病院間連携の強化が求められています。その象徴的な成功事例として、福島県会津若松市における「心停止医療連携システム」が挙げられます(図6)。

【図6】会津地域 心停止医療システム

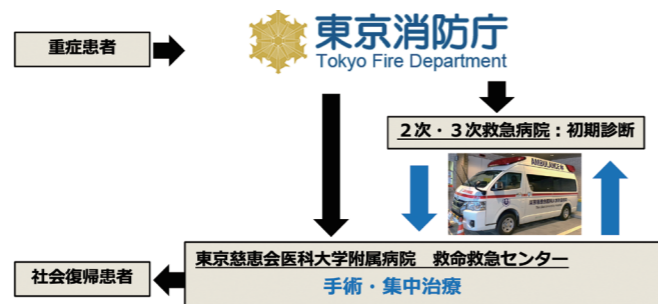
Tagami et al. Implementation of the fifth link of the chain of survival concept for out-of-hospital cardiac arrest. *Circulation* 2012



同地域では、会津中央病院が中心となり「5つ目の救命の連鎖(fifth link)」——すなわち、集中治療・高度医療への病院間連携——の構築に取り組み、自己心拍再開後の社会復帰率を飛躍的に改善しました。この取り組みは、蘇生術の国際ガイドラインにも引用されるなど、注目を集めています。特に、二次救急病院で心拍が再開した患

者(図7)。2025年4月以降、手術対応や集中治療管理が必要な重症外傷や急性腹症の患者について、周辺医療機関からの紹介・搬送が増加しています。緊急時に他院から当院へ患者を受け入れる「上り搬送」や、治療の峠を越えた患者を地域の病院に戻す「下り搬送」の件数がともに増加しております。

【図7】病院間連携システム



また現在、救急搬送診療料や救急患者連携搬送料が適用される契約医療機関との連携体制も整備されつつあり、医療圏内における患者フローの最適化と重症患者の治療資源の効率的活用に向けた取り組みが加速しています。

今後は、慈恵医大救命救急センターが、東京都心部における三次救急医療の中核施設としての役割を果たすと同時に、附属の葛飾医療センター、第3病院、柏病院との病院間連携をも主導してまいります。搬送プロトコルの整備やリアルタイムな医療情報共有体制の構築を推進し、患者さんにとって最善の救急医療を迅速かつ的確に提供できる体制を構築することが我々の使命と考えております。

附属病院救命救急センターは、現在、組織的・機能的にも新たなフェーズに突入しており、2025年の救急災害医学講座の発足を機に、診療・教育・研究の三位一体のさらなる高度化に向け、全力で取り組んでまいります。

Nursing

明日の看護教育を担う
 教育管理者の育成



公益社団法人東京慈恵会
 教務主任養成講習会
 佐々木 郁子

公益社団法人東京慈恵会は教務主任養成講習会(以下講習会)を2012年から2022年までの10年間開催した。このことについては「The JIKEI vol.39_2023」の「東京慈恵会教務主任養成講習会」でその歩みが掲載された。講習会はその後2年間休止し、その期間中に10年間の評価を踏まえ、会の意義、実施方法等の検討を重ねた。

1. 教務主任養成講習会のもつ意義

日本の看護師養成は3年課程および2年課程の養成所(以下、看護専門学校)が中心的役割を果たしてきた。近年看護系大学が急増し、2025年の看護師国家試験受験者数は大学生が3年課程の看護専門学校生を上回った。しかし、2年課程と3年課程の看護専門学校生の受験者数は全体の半数以上を占め、看護専門学校の役割は大きい。よって看護専門学校が存在する限り、看護基礎教育の充実および質の向上を図る上で講習会の果たす役割は重要で、公益社団法人の公益事業として東京慈恵会が講習会を再開する意義は大きいと考える。

2. 講習会再開にむけての特徴

講習会の受講対象者は、自校では重要な役割を担っており、看護専任教員不足からも、長期間勤務から離れることは難しい状況にある。そこで、再開する本講習会は5か月間から4か月間に短縮し、対面式を基本とするが、集合対面受講が難しい方にはリアルタイムで受講できるよう、LMS(オンライン学習システム)・web会議システムを活用したハイブリッド型の受講形態(以下オンライン受講)をとることとした。また、遠方から上京する受講者には有料で看護師寮を使用できるよう配慮した。

期間は年度開始の4月を避け、8月の夏期休暇を挟む5月から8月の4か月間に実施することとした。1か月短縮するにあたり、授業科目及び時間数を見直し、ガイドラインで示されている科目と従来の特徴をいかした科目を残し、全8科目330時間とし、看護教育を取り巻く状況から必要性が高いと判断した特別講義「教育評価」と「生成AIと教育」(計9時間)を設けた。(自己学習時間を含む総時間数は前回より87時間減少)

3. 受講状況

今年度の受講者は定員25名中、対面受講者15名、オンライン受講者9名、北は秋田県、南は沖縄県と全国から受講した。現在、講習会は3団体が開催し他2団体は修業年限2年間であり、1団体はe-ラーニング主体としている。当講習会を選択した理由は、ほぼ全員が「リアルタイムで受講できる(対面またはオンライン)」であること「開催期間が短い」であった。

開講式には24名全員が集合し、その後ガイダンスや自己紹介など短時間ではあるが交流した。受講者は、真剣に聴講し自己の課題に熱心に取り組んでいる。初めてのハイブリッド型講習会であるため、講義初日には若干トラブルがあったが、講習会が進むにつれIT機器の操作にも慣れ、グループワークでの討論が活発にできるようになった。

4. 今後について

本講習会は期間限定の開催となることが決定している。今後対面とオンライン受講の満足度を評価しつつ、講習会の質的向上と受講者確保対策を講じることが課題となる。



建学の精神(理念)および 大学・大学院の目的・使命の 英訳版について

建学の精神(理念)と大学および大学院の目的・使命は大学・大学院の特長を示す重要なものであり、内部質保証を推進するにあたり、国内のみならず、広く世界に発信する必要があります。そのため、

学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会では、これらの英訳版の策定を段階的に進めてきましたが、今般、すべての英訳版の策定が完了しましたので、ご報告いたします。



東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学
内部質保証推進委員会委員長
柳澤 裕之

建学の精神 Founding spirit / 大学の理念 Philosophy

病気を診ずして病人を診よ 英訳: Treat the patient, not the disease

解説

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」は、創設者高木兼寛が目指した「医学的力量のみならず、人間的力量をも兼ね備えた医師の養成」を凝縮したものである。この精神は看護学教育にも「病気を看ずして病人を看よ」として取り入れられている。本学の研究と医療を通じた社会貢献もこの精神のもとで行われる。

Explanation

The founding spirit, 'Treat the patient, not the disease', is a condensed version of the goal of our founder, Kanehiro Takaki, to 'train doctors who have medical and human abilities'. This spirit is also incorporated into our nursing education as 'Care for the patient, not the disease'.

The University's contributions to society through our research and medical practice are also made with this spirit.

大学の目的・使命

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づき、医師・看護師の育成、医学・看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉に貢献することが本学の使命である。

University purpose/mission

The mission of our University, based on the founding spirit of 'Treat the patient, not the disease', is to contribute to the health and welfare of humankind through the education of doctors and nurses, the promotion of medical and nursing research, and the practice of medical care.

医学部医学科の教育理念

— 医学は学と術と道とより成る —

解説

知識、技術、心の修練により人類の健康と福祉を求めてやまない良医、すなわち建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」を体現する医師を育てる。

Educational Philosophy of School of Medicine

"Excellence in medical care: The synergy of knowledge, skills, and ethics"

(Explanation) The goal is to nurture physicians who embody our founding spirit: "Treat the patient, not the disease"

We empower our students to become compassionate, skilled, and lifelong learners in medicine, capable of addressing complex health challenges with depth and empathy.

医学部看護学科の教育理念

人間の尊厳に基づいた心豊かな人間性を形成し、専門的・社会的要請に応じられる看護の基礎的能力を養い、看護学の発展に貢献できる創造性豊かな資質の高い看護実践者を育成する。

Educational Philosophy of School of Nursing

The goal is to foster a rich humanity based on the dignity of each person, to develop basic nursing abilities that can meet professional and social needs, and to cultivate highly qualified and creative nursing practitioners who can contribute to the development of nursing science.

大学院の目的・使命

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づく研究、教育、医療を推進できる高度な能力を涵養し、医学・看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉の向上に貢献することが本大学院の使命である。

Graduate School purpose/mission

The mission of our graduate school, based on the founding spirit of 'Treat the patient, not the disease', is to cultivate advanced abilities to promote research, education, and medical care, and to contribute to the improvement of human health and welfare through the promotion of medical and nursing research and the practice of medical care.

医学系専攻博士課程の目的

医学系専攻は、本学大学院の目的・使命に基づいた臨床医学、基礎医学、社会医学における優れた研究者の養成を主眼とし、自立して研究活動を行うために必要な高度の医学的力量と医学研究者として必要な人間的力量、それに加えて医学の研究・教育・社会貢献に求められる多様な指導力を身に付け、その基礎となる豊かな学識を深めることを目的とする。

Purpose of the Doctoral Program in Medical Sciences

The purpose of the Doctoral Program in Medical Sciences is to foster excellent researchers in clinical medicine, basic medicine, and social medicine based on the mission of our Graduate School. This program aims for students to develop broad academic knowledge, the high level of medical expertise necessary for independent research, and the diverse leadership skills required for research, education, and societal contributions in medicine.

看護学専攻博士前期課程の目的

看護学専攻博士前期課程は、広い学術的基盤に立って人間を理解し、各専門分野における研究能力を獲得することにより、看護学および看護実践の発展に貢献できる実践者、指導者を育成することを目的とする。そのため、本課程には、「看護学研究論文コース」と「高度実践研究コース」を設ける。

Purpose of the Master's Program in Nursing Science

The Master's Program in Nursing Science aims to develop practitioners and leaders who can contribute to the advancement of nursing science and practice. Based on a broad academic foundation and a deep understanding of humanity, the program offers two courses: a "Nursing Research Thesis Course" and an "Advanced Nursing Practice Course."

看護学専攻博士後期課程の目的

看護学専攻博士後期課程は、看護学分野における高度な研究能力と、人間中心の最善の看護を提供できる医療人を教育する能力を養い、その基礎となる豊かな学識を深めることにより、看護学および看護実践の発展に貢献できる優れた教育者、管理者、研究者を育成することを目的とする。

Purpose of the Doctoral Program in Nursing Science

The Doctoral Program in Nursing Science aims to cultivate outstanding educators, administrators, and researchers who can contribute to the advancement of nursing science and practice. The program focuses on developing advanced research abilities in nursing and fostering the ability to educate healthcare professionals capable of providing optimal patient-centered care.

医科学専攻修士課程(遺伝カウンセリング学)の目的

医科学専攻修士課程は、遺伝情報(ゲノム情報)を利用した医療・保健の現場で患者に寄り添うために、幅広い最新の遺伝医療の知識を有し、加えて豊かな人間性とチーム医療に必要なコミュニケーション能力を持ち、さらに国際的視野を兼ね備えた医療保健分野での専門職である遺伝カウンセラーを育成することを目的とする。

Purpose of the Master's Program in Medical Sciences

The Master's Program in Medical Sciences aspires to shape future generations of genetic counselors, distinguished by their mastery of advanced genomic medicine and its transformative applications in healthcare. Grounded in a patient-centered philosophy, the program fosters compassionate professionals who exemplify intellectual depth, empathetic care, and outstanding communication skills necessary for effective interdisciplinary collaboration. With a vision that extends beyond borders, we prepare our graduates to lead with innovation and integrity in the dynamic and globally interconnected landscape of medicine and healthcare.

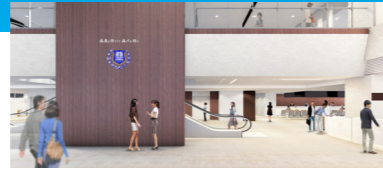
(仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センター 2026年1月リニューアルオープン



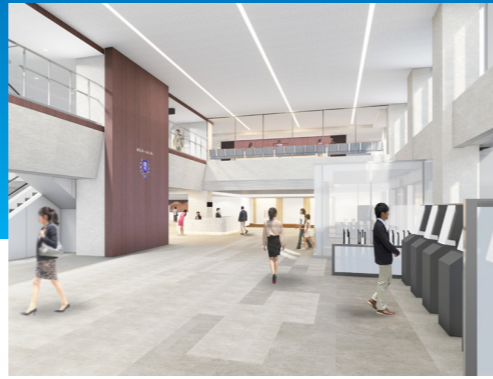
南側正面



南東側



1F エントランス



1F エントランス

地域の新たな医療の拠点へ ——脳卒中センターと緩和ケア病棟を新設

詳しくはこちら▶



2026年1月、「(仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センター」が、新たな医療機能とともにリニューアルオープンします。今回は新規医療機能の中で、脳卒中センターおよび緩和ケア病棟についてご紹介いたします。

新病院開設に伴う 「脳卒中センター」設置について

このたびの新病院開設に伴い、「脳卒中センター」を新設いたしました。これにより、従来の診療体制に加え、脳神経内科と脳神経外科が密に連携し、24時間365日対応可能な脳卒中診療体制を構築いたしました。

進化した診療体制の3つのポイント

1. 脳血管内治療の本格導入

カテーテルによる脳血管内治療を実施していきます。これにより、迅速に治療を開始し、患者への負担が少ない対応が可能になります。

2. 最新鋭の設備による迅速な診断・治療

・SCU(ストロークケアユニット)4床を併設:手術室に隣接した動線設計により、救急搬送から画像診断・血管内治療までをシームレスに実施。集中的モニタリング体制のもと、急性期管理を強化します。

・最新鋭のMRI・CT装置を導入:パーフュージョンCTを活用し、脳の虚血領域を可視化。治療適応の迅速な判断が可能となりました。

・多目的血管撮影装置の導入:高精度な画像を低侵襲で取得できる環境を整え、診断・治療の質の向上に貢献します。

3. 開頭手術にも最先端技術を導入

2025年に国内導入された最新のロボット支援機能付き手術用顕微鏡を導入。熟練医と同等の操作精度を実現し、より安全かつ精密な手術が可能となります。高度な手術手技を標準化することで、多くの患者さんに質の高い治療を提供します。

多職種連携で実現するチーム医療

・脳神経内科・脳神経外科の常勤医体制を強化
急性期から慢性期に至るまで一貫した診療を提供するため、両科の専

門医が常時連携し、迅速かつ的確な治療判断を可能にします。
・専門的スキルを持つスタッフによる対応
看護師をはじめ、放射線技師、救急対応チームなど、各分野の専門スタッフを適正に配置し、急変時や治療判断が求められる場面にも即応できる体制を整備します。
・リアルタイム連携ツール「Join」の活用
院内外の医療スタッフ間で画像や情報を迅速に共有できる「Join」を導入。救急搬送時や時間外にも、専門医の知見を即時に反映させることで、診療の質とスピードを向上させています。

リハビリテーションと社会復帰支援の充実

当院ではリハビリテーション科に加え、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種によるチーム医療体制を構築しています。これにより、疾患の治療にとどまらず、患者さんの社会復帰を見据えた包括的な支援が可能となります。患者さんを中心とした環境づくりを通じて、身体的・精神的・社会的側面から全人的なケアを提供します。

さらに退院後も切れ目のない支援を実現するために、地域の医療機関や介護施設と緊密に連携し、急性期から回復期・慢性期に至るまで一貫した医療とリハビリテーションを提供できる体制を整えています。

大学病院としての使命と展望

大学病院としての当院は、臨床に加え、教育と研究の充実を使命としています。新たに導入される先進的な医療機器は、診療の質の向上に寄与するだけでなく、医師やコメディカルスタッフの教育・研修にも活用され、次世代の人材育成に資する環境を提供します。

また、SCUや最新機器を使用した診療データの蓄積・分析を通じて、疾患の病態解明や治療法の開発につなげる臨床研究を推進していきます。こうした取り組みにより、未来の医療の発展にも貢献していきます。



外来待合



入院リハビリテーション



手術室



5～7F 一般病棟サービスステーション



5～7F 一般病棟4床室



7F 緩和病棟

本学初! 緩和ケア病棟が誕生

“思いやりと慈しみの緩和ケアを”

新病院では、本学初となる緩和ケア病棟が開設されます。「病気を診ずして病人を診よ」という本学の建学の精神を体現し、その人らしく過ごせる場所として地域に広く提供します。

大学病院に緩和ケア病棟

大学病院における緩和ケア病棟は、実は全国的にも数が少ないものです。全国で緩和ケア病棟を設置している病院は468(うち大学病院は11)、病床数の総計は9746床です(2024年6月時点)。東京都の緩和ケア病棟は33(664床)ありますが、人口100万人当たりになると46床しかなく、全国平均78床より約4割も少ない現状があります。さらに、新病院が地域医療を担う狛江市・調布市・世田谷区(人口計約127万人)には緩和ケア病棟はゼロで、「緩和ケア過疎地」といえます。

今回開設された病棟は、専門性の高い医療と、患者一人ひとりの尊厳を重視するケアを両立させる場として設計されました。

新病院の緩和ケア病棟では、①看取りを目的とした入院、②一般病棟や在宅医療では対応が困難な苦痛を伴う症状の緩和、③短期入院による介護者支援(レスパイトケア)、④緩和ケアに関する教育の各役割を担っていきます。

積極的治療のあとも、安心して過ごせる場所を

当院の緩和ケアでは、がんの診断直後から取り入れるケアを行っています。さらにこの病棟では、がんの積極的な治療が難しくなってきた患者さんを対象に、身体的な苦痛の緩和や、精神的な支えを重視したケアを行います。

できるだけ自宅に近い空間づくりを意識し、穏やかに過ごせる“もうひとつのわが家”を目指します。

全室個室21床であり、家族との時間を持てるよう原則面会制限は設けていません。最期まで患者さんの人生・生活を大切にできるような、食事提供・トイレ・機械浴等の環境を整えています。

とはいえ、「終の棲家(すみか)」ではありません。症状が安定すれば、ご自宅や施設へ戻ることも積極的に支援しています。

地域に根ざし、誰でも利用できる病棟

この病棟は当院に通院していない方でも利用可能です(事前に面談が必要)。

地域の病院や在宅医療を担う先生方からの紹介を積極的に受け入れ、地域医療の一端としての役割も担っていきます。地域のみなさんに

こそ活用していただきたい病棟です。この緩和ケア病棟の誕生により、患者さんの住み慣れた地域で、がんの積極的治療から専門的緩和ケアまで、途切れなく支えられる体制を整えます。

大学病院だからこそ、できること

大学病院であることの強みは、専門性の高い医療を提供できること。痛みや呼吸困難といった身体症状の緩和だけでなく、心理・社会・スピリチュアルな側面にも目を向けた全人的なケアを実践します。そのために、専門科や専門職種と連携し、患者さんとそのご家族のQOL向上を目指します。

また、医療人材の育成にも注力し、緩和ケアを担う次世代の専門職の教育の場にもなっています。卒前・卒後教育の場として、学生・研修医・看護師を含む多職種への教育を実施し、地域へ向けた緩和ケア教育の発信にも力を入れていきます。

一人ひとりに合った、最善の選択とともに

この病棟で大切にしているのは、患者さんの「その人らしさ」です。「どう生きたいか」「どこで過ごしたいか」。その思いに寄り添いながら、ご家族とも一緒に最善の道を考えていきます。

何より大切なのは、患者さんとご家族の思い。その尊厳を守ることが、私たちの使命です。

最後に——地域とともに歩む緩和ケア病棟

(仮称)慈恵医大西部医療センターの緩和ケア病棟は、地域に開かれた“医療資源”です。

以下のような方のご紹介・ご相談をお待ちしています。対象は、施設基準に則り、積極的ながん治療が難しくなったがん患者さんになります。

- ・身体的・精神的な苦痛の緩和が必要な方
- ・在宅療養が難しく、入院による支援が望ましい方
- ・いずれ緩和ケア病棟に入院を考えている方

緩和ケア病棟をご利用されるためには、事前に緩和ケア病棟初診面談を受ける必要があります。

ご利用までの流れ

- ① 地域の主治医から紹介
 - ② 緩和ケア病棟初診面談の実施
 - ③ 入院の適応判定
 - ④ 入院日の調整・入院
- 退院後の支援体制も整え、ご自宅・施設への移行も含めた切れ目のないサポートを行います。今後も地域医療の一翼を担う存在として、地域との連携を強化し、その機能の充実を図ります。

The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2024年12月～2025年7月

12月

第8回東京慈恵会医科大学・ 東京理科大学 合同シンポジウム

両校から計8名の研究者が講演、ポスター発表も行われ
今後の連携強化に向けても様々な提案が行われました。

2024年12月21日(土)、東京理科大学神楽坂キャンパスおよびオンラインにて、「第8回東京慈恵会医科大学・東京理科大学合同シンポジウム」が開催され、両校から計89名が参加しました。本シンポジウムは、教育・研究活動のさらなる充実と医理工業の連携推進を目的として、両大学の連携協力協定に基づき毎年開催されているものです。今回は「免疫」と「データサイエンス」の2部構成で、それぞれ両校から計8名の研究者が講演を行い、質疑応答や意見交換も活発に行われました。講演の合間にはポスター発表も行われ、参加者同士の交流が深まりました。最後の全体討論では、今後の連携強化に向けたさまざまな提案がなされ、有意義な議論の場となりました。



第8回 東京慈恵会医科大学・東京理科大学 合同シンポジウム

開催日：2024年12月21日(土) 13:00～18:00 情報交換会18:00～
会場：東京理科大学 神楽坂キャンパス 2号館1階212教室
(〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3) ※対面+オンライン(Zoom)によるハイフレックス

13:00- オープニング・リマークス
東京理科大学 学長 石川 正俊
東京慈恵会医科大学 学長 後藤 干弥

第一部【免疫】
座長 東京理科大学 薬学部 生命創薬科学科 教授 樋上 真一
東京慈恵会医科大学 循環器内科学 教授 石渡 賢治

13:10- 講演1: 東京理科大学 研究推進機構 生命医科学研究所 教授 北村 大介
「異なる抗原タイプに対するCD8細胞免疫応答のメカニズム」

13:40- 講演2: 東京慈恵会医科大学 循環器内科学 助教授 林崎 浩史
「肺炎球菌感染症の病状と新規肺炎球菌ワクチンの開発」

14:10- 講演3: 東京理科大学 研究推進機構 生命医科学研究所 准教授 本村 徹哉
「Primary Prevention of Allergic Diseases via Translational Research」
～自験リンパ腺から観察したアレルギー発症機序と予防戦略～

14:40- 講演4: 東京慈恵会医科大学 分子疫学研究部長 小児科 教授 瀧島 充佳
「Primary Prevention of Atopic Diseases via Reverse Translational Research」
～ランダム化臨床試験から見たアレルギー疾患の一次予防～

15:10- コーヒーブレイク

第二部【データサイエンス】
座長 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 教授 船智 小枝
東京理科大学 特任副学長 総合研究院長 西原 寛

15:40- 講演5: 東京理科大学 研究推進機構 生命医科学研究所 准教授 渡江野 洋
「生命科学研究におけるデータサイエンス研究の実際とAI/MLを用いた
臨床研究との連携について」

16:10- 講演6: 東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科 助教授 山中 修一郎
「移植用臓器の質向上における腎トランスクリプトーム解析と連携」

16:40- 講演7: 東京理科大学 薬学部 生命創薬科学科 教授 秋本 和雄
「総合研究院(RIST)データサイエンス医療研究部門の取り組みと慈恵医大との連携への期待」

17:10- 講演8: 東京慈恵会医科大学 精神医学講座 准教授 小高 文雄
「附属4病院における精神科医療データの多モダリティ解析」

17:40- 全体討論 今後の連携等について
座長 東京慈恵会医科大学 副学長(研究担当) 岡部 正隆

17:55- クロージング・リマークス
東京理科大学 副学長(研究担当) 内後 保雄

18:00- 情報交換会 8号館2階 学生食堂

申し込み：https://a.gd/02YQ
対象：本学教職員・学生
問合せ先：東京慈恵会医科大学事務局研究推進課 相澤・本多
E-mail:ura@jikei.ac.jp 内線71-2538



申込締切:
2024年12月11日(水)16:00

1月

令和6年度 退任記念講義・ 退任記念挨拶並びに退任記念懇親会

200名を超える関係者が参加し、
理事長による乾杯の発声と共に会がスタートし、大いに盛り上がりました。



令和7年1月31日(金)、本年3月末日をもって退任される吉村道博教授(内科学講座 循環器内科)による演題「心不全学の進歩: 慈恵医大での軌跡」の退任記念講義が大学1号館講堂(3階)で執り行われました。

退任記念講義の後、同じく定年退任される鐘ヶ江裕美教授(総合医科学研究センター基盤研究施設)・西川正子教授(大学直属)・木山秀哉教授(麻酔科学講座)・加藤智弘教授(大学直属)・古田希教授(泌尿器科学講座)・山本裕康教授(大学直属)・渡邊修教授(リハビリテーション医学講座)・黒坂大太郎教授(内科学講座 リウマチ・膠原病内科)・勝沼俊雄教授(小児科学講座)・宮田市郎教授(小児科学講座)・吉田正樹教授(感染制御科)・土橋史明教授(内科学講座 腫瘍・血液内科)・芝田貴裕教授(内科学講座 循環器内科)・塚田弘樹教授(感染制御科)・辰野聡教授(放射線医学講座)・石田祐一教授(大学直属)・浅野晃司教授(大学直属)・青木学教授(放射線医学講座)より挨拶があり、松藤千弥学長から、永年の大学への貢献に対して感謝の意が表されました。



最後に、大学・同窓会・医学科保護者会・医学科学生会から記念品が贈られ、新旧キャンパスの映像と共に流れた慈恵の歌(学生歌)を斉唱し、退任記念講義は終了となりました。

同日、午後6時から会場を東京プリンスホテル2階「プロビデンスホール」に移して、退任記念懇親会が開催されました。名誉教授・客員教授・同窓生・教職員・学生など200名を超える参加があり、金城雄樹学生部長の開会挨拶の後、退任教授の挨拶、所属部署・学生会代表者から花束贈呈が行われました。栗原敏理事長より、退任教授のこれまでの大学発展への貢献に謝辞が述べられ、今後の更なる活躍を祈念して、乾杯の発声と共に会がスタートしました。退任教授を囲んで談笑の輪が会場全体に広がり、大いに盛り上がりました。名残を惜しみながら金城学生部長より閉会の辞が述べられ、退任教授への拍手をもって閉会となりました。

2月

第1270回成医会例会 『睡眠の謎に挑む～原理の追求から社会実装まで～』 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構長 柳沢正史先生

2025年2月21日(金)、第1270回成医会例会が、2号館講堂で開催されました。今回は、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構の柳沢正史氏をお招きし、「睡眠の謎に挑む～原理の追求から社会実装まで～」と題して、生物にとって欠かせない「睡眠」についてご講演いただきました。最後に松藤成医会会長より謝辞が述べられました。4機関テレビ会議システムのほか、eラーニングを利用した動画配信も実施され、多くの教職員が視聴しました。



3月

令和6年度 医学科・看護学科卒業式

会場は600名を超える関係者で埋め尽くされ、6年ぶりに松藤千弥学長より卒業生一人ひとりに卒業証書が授与されました。

令和7年3月6日(木)午後1時30分より、2号館講堂において東京慈恵会医科大学医学部第100回医学科・第30回看護学科卒業式が挙行され、会場は600名を超える多くの教職員、保護者、在学生、同窓生で埋め尽くされました。音楽部により「威風堂々」が演奏される中、松藤千弥学長を先頭に栗原敏理事長、竹森重医学科長、北素子看護学科長が入場され、厳粛に卒業式が開始されました。本年度は6年ぶりに松藤千弥学長より卒業生一人ひとりに卒業証書(学位記)が授与され、会場から温かい拍手が送られました。

続いて、慈大賞が森田優真さん(医学科)、船場美渚さん(看護学科)に、同窓会賞が橋爪駿さん(医学科)、島田さなさん(看護学科)に、保護者会賞が山口絵梨さん(医学科)、永山悠乃さん(看護学科)に授与されました。

次いで、令和6年度に最も充実した活動を行ったクラブに贈られる樋口一成記念杯が、ゴルフ部(運動部門)とジャズ研究会(文化部門)に授与されました。

その後、松藤千弥学長より式辞を、栗原敏理事長より祝辞をいただき、在学生代表の糸井耀さん(医学科)、中村咲希さん(看護学科)より送辞が述べられ、卒業生代表の森田優真さん(医学科)、船場美渚さん(看護学科)より謝辞が述べられました。

終わりに、慈恵の歌「曙満ち来る」を斉唱し、厳かで凛とした空気に包まれ卒業式は閉会しました。



4月

令和7年度 新入職員就任式

445名の新入職員が、新しい一步を踏み出しました。

令和7年4月1日(火)午前10時より2号館講堂において新入職員就任式が執り行われました。真冬並みの厳しい寒さの中での挙行となりましたが、出席した新入職員の表情は一様に明るく晴れやかでした。式典では栗原理事長より告辞を賜り、その内容はテレビ会議システムを用いて各附属病院に配信されました。

当日は期待と緊張の入り混じった雰囲気の中厳かに進められ、445名の新入職員が喜びとともに大きな期待と希望を胸に慈恵大学での第一歩を踏み出す門出となりました。



令和7年度 医学科・看護学科入学式

約600名の参列を得て、盛大に挙行され、松藤千弥学長より医学科105名、看護学科60名の入学許可が宣言されました。

令和7年4月10日(木)午後2時より、2号館講堂において医学科・看護学科の入学式が厳粛に執り行われました。入学生と保護者および教職員の約600名の参列を得て、盛大に挙行することができました。

冒頭、松藤千弥学長より医学科105名、看護学科60名の入学許可が宣言され、入学生を代表して杉本優花さん(医学科)、小見山弘志さん(看護学科)より宣誓が述べられました。

次いで、松藤千弥学長より告辞を、栗原敏理事長より祝辞をいただき、松藤千弥学長より入学生代表の学生に同窓会・保護者会・大学からの記念品が贈呈されました。

そして、心温まる祝電が披露され、終わりに慈恵の歌「曙満ち来る」を斉唱し、晴れやかな空気に包まれ入学式は終了しました。



4月

4月 第5回慈恵-Mayo Clinic ジョイントシンポジウムを開催

Mayo Clinicと本学から、それぞれ講演があり、講演の後には、車座形式で参加者全員によるディスカッションがもたれました。

2025年4月21日(月)に、第5回慈恵-Mayo Clinicジョイントシンポジウムが、本学2号館講堂にて開催されました(参加者約70名)。

Mayo Clinicからは、本シンポジウムの開催を炭山和毅教授(内視鏡医学講座)とコーディネートされたDr. Jamie Newmanのほか、講演者として、Mayo Clinicフェニックス病院のDr. Alyssa Chapital、Mayo Clinicにて将来の医療の在り方を構想するMayo Clinic Platformの活動に関わられているDr. Mark Larson、Dr. Sonya Makhniの参加がありました。また、本学からは、

高尾洋之准教授(先端医療情報技術研究部)によるアバターを利用したビデオ講演がありました。

講演の後には、車座形式でいす並べ、参加者全員により、対面形式にて、シンポジウムのテーマである「Digital Medicine: Creating Sustainable Health Care System」に基づいたディスカッションがもたれました。



高木兼寛先生をしのぶ会開催

4月12日、約70名が高木兼寛先生の墓参りをして偉業に思いをはせました

高木兼寛先生をしのぶ会(高木兼寛顕彰会主催)が令和7年4月12日(土)に青山霊園で行われました。この会は毎年恒例となっており、清山知憲宮崎市長、本学松藤千弥学長をはじめ、高木兼寛顕彰会、高岡町商工会、在京宮崎市高岡郷人会、東京近郊の宮崎県出身者、さらに高木家等、約70名が高木兼寛先生の墓参りをして偉業に思いをはせました。



高木家のお墓に献花をする清山知憲宮崎市長(右)と本学松藤千弥学長(左) 高木兼寛顕彰会ご提供

4月

5月 【慈恵医大初】 学生主体による国際交流プログラム「AMSEP」を開催

本学の国際交流のさらなる発展に寄与すべく、学生が主体となり初めて開催。インドネシアから12名の医学生を受け入れました。

2025年4月27日から5月3日にかけて、東京慈恵会医科大学において、学生主体による国際交流プログラム「AMSEP (Asian Medical Students' Exchange Program)」を初めて開催しました。

本プログラムは、アジア32の国と地域に支部を持つ学生団体「AMSA (Asian Medical Students' Association)」が提供するものであり、①医学的知識を深める「Academic Program」、②異文化理解と交流を促進する「Sociocultural Program」、③地域貢献を目的とする「Community Service」の三本柱から構成されています。これらすべてを学生自らが企



画・運営する点が大きな特徴となっています。

今回は、2年生から6年生までの学生26名が運営委員会「AMSA慈恵」を結成し、インドネシアから12名の医学生を受け入れました。病院や研究室の見学、講義、文化紹介、高校生との交流、献血ルームでのボランティア、浅草・上野の観光など、多彩なプログラムを実施しました。

今後は、本プログラムの部活動化を視野に体制整備を進め、継続的な開催を目指していきます。「AMSEP慈恵」として、本学の国際交流のさらなる発展に寄与すべく、今後も積極的に活動してまいります。



「忘れられない看護エピソード」 最優秀賞受賞

授賞式参加および作品が短編アニメ化されました。

柏病院の摂食・嚥下看護認定看護師である福田良美さんの投稿が、日本看護協会が主催する2025年度「忘れられない看護エピソード～いのちを守り、支えるプロフェッショナル～」で最優秀賞を受賞しました。

このエピソード「黒い食器の魔法」は、福田さんの注意深い観察と気づき、そして7B病棟スタッフによる継続的な看護によって、一人の患者さんの人生が好転していく物語です。

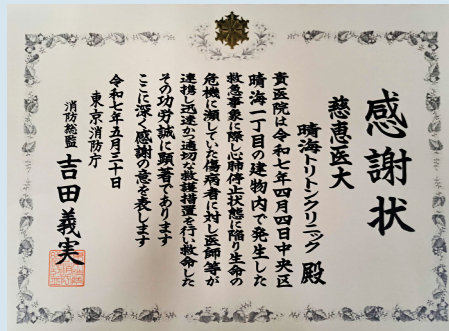


5月

5月

晴海トリトンクリニックへ 東京消防庁消防総監から感謝状が 贈呈されました

トリトンスクエア内で
心肺停止に陥った男性を
クリニックの医師・職員等が
連携して救命しました。



4月4日、トリトンスクエアオフィスビルのグランドロビーでの心肺停止傷病者に対して、救急隊へ引継ぐ迄に当クリニックの職員等が連携して迅速に救護措置を行い救命した事案に対して、5月30日に臨港消防署において慈恵医大晴海トリトンクリニックとして消防総監感謝状が贈呈されました。

6月

地域救急医療業務への貢献

葛飾医療センター看護師
佐藤香奈枝さんが
葛飾区、葛飾区医師会、
葛飾救急業務連絡協議会から
表彰されました。

地域救急医療業務の重要性を深く認識し、傷病者の
生命と安全の確保に尽力したとして、葛飾区、葛飾区医
師会、葛飾救急業務連絡協議会より2025年6月13日に開
催された葛飾救急業務連絡協議会表彰式において表彰
されました。



6月

穂坂デジタル副大臣が 附属病院(本院)を視察されました

マイナ保険証によるスムーズな受付や、LINEでの順番通知、
後払い会計など、患者目線の利便性が高く評価されました。



6月16日、穂坂デジタル副大臣が附属病院(本院)を見
学され、マイナンバーカードの利用や病院DXの現場を視
察されました。マイナ保険証によるスムーズな受付や、
LINEでの順番通知、後払い会計など、患者目線の利便
性が高く評価されました。また、医師の労務管理の一環と
してビーコンで動きを可視化し、働き方改革にも取り組む
姿勢やその他iPhoneアプリの活用にも注目されました。iPad
による意志伝達支援など、アクセシビリティの例も実機を用

いて体験されました。3000台超のiPhoneを活用する最先
端の現場で、DXの可能性とともにコスト面などの課題に
ついても
活発な意
見交換
がされま
した。



6月

葛飾区との災害時における 救急輸送業務に関する協定を締結しました



大規模災害が発生し、
多数の傷病者が発生した際、
重症者の救急搬送に協力

2025年6月10日に葛飾区役所において、葛飾
区との災害時における救急輸送業務に関する
協定締結式が行われました。本協定は大規模
災害が発生し、多数の傷病者が発生した際に、
当院保有の救急車両を活用して重症者の救
急搬送に協力するものです。

東京慈恵会医科大学・東京理科大学共同シンポジウムを開催

7月



小学生から大人まで多くの参加者が医学と理工学連携の意義、マッチングの重要性などについて耳を傾けました。



左から Newton編集部長 板倉龍氏、東京理科大学 特任副学長 向井千秋氏、東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥、東京理科大学 学長 石川正俊氏

2025年7月12日(土)東京理科大学葛飾キャンパスにおいて「東京慈恵会医科大学・東京理科大学共同シンポジウム」が開催されました。シンポジウム第一部は「社会で活躍する理系人材」と題し、本学からは大庭梨菜助教(内科学講座(腎臓・高血圧内科)、藤村宗一郎助教(先端医療情報技術研究部)が登壇され、社会で活躍する両大学の卒業生が取り組んでいる仕事や理系大学を選んだきっかけ、学びとキャリアを繋げた社会での役割などについてのトークセッションが行われました。第二部「理系教育未来-科学と技術、そして医療が交差する新時代の学びへ」では、本学松藤千弥学長、石川正俊東京理科大学学長、向井千秋東京理科大学特任副学長によるトークセッションが行われました。小学生から大人まで多くの参加者が今注目されている医学と理工学連携の意義、マッチングの重要性、将来の進路選択などについての話題に耳を傾けました。

東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥



東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 助教 東京理科大学工学部 機械工学科 助教 藤村宗一郎



東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科助教 大庭梨菜



2025年(令和7年)主な行事予定表(8月~12月)

8月6日(水)	医学部第1回オープンキャンパス(2号館講堂)(午後1時)
8月7日(木)	医学部第2回オープンキャンパス(2号館講堂)(午後1時)
8月17日(日)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月18日(月)	共用試験CBT(医学部4年生)(4階講堂他)
8月19日(火)	共用試験CBT(医学部4年生)(4階講堂他)
8月23日(土)	診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-CC OSCE)(7階実習室・8階演習室他)
9月6日(土)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)入学試験
9月18日(木)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)合格発表(午後1時)
9月19日(金)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)(7階実習室・8階演習室他)
9月20日(土)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)(7階実習室・8階演習室他)
9月25日(木)	慈恵医大夏季セミナー・東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム(大学1号館講堂)
10月4日(土)	学祖墓参
10月9日(木)	第142回成医会総会
10月10日(金)	第142回成医会総会
10月11日(土)	大学休業日
10月18日(土)	卒業50周年記念大学招待懇親会(昭和50年卒)(午後5時から東京プリンスホテル)
10月25日(土)	看護学科第3回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
10月27日(月)	第2回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
10月28日(火)	第121回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
11月15日(土)	同窓会第79回定期支部長会議(午後4時からホテルオークラ) 同窓会設立百周年記念式典・祝賀会(午後5時からホテルオークラ)
11月29日(土)	医学部保護者会秋期総会(午後3時40分から2号館講堂)
12月24日(水)	教授・准教授懇談会(午後6時から帝国ホテル)

JIKEI VIDEOS

学校法人慈恵大学ビデオ

専門医紹介動画のご紹介

慈恵大学では、患者さんにとってプラスになる医療関連の情報をお届けできるよう、動画による情報発信も積極的に行っております。今回ご紹介する専門医紹介動画以外にも、「みんなの健康教室(本院)」や公開講座などの動画も配信しておりますので、ぜひご覧ください。

糖尿病・代謝・内分泌内科

糖尿病の合併症「**し・め・じ**」を予防

～無理なく続ける食事・運動・薬物療法～

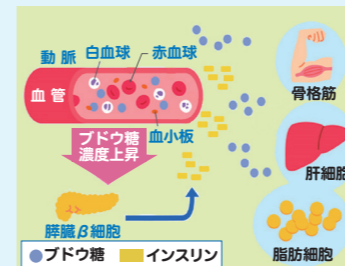


糖尿病・代謝・内分泌内科 西村 理明 診療部長

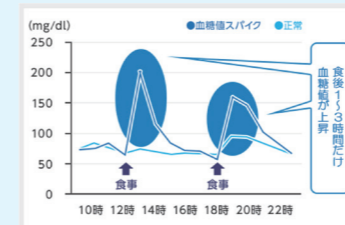
糖尿病で治療をうけている患者数は約580万人(2024年調査)とされています。すい臓で産生される**インスリン**というホルモンの不足や作用が低下することによって、血液を流れるブドウ糖が増える病気です。高血糖が続くと全身の血管が障害され、進行すると怖い合併症が起こります。早期に発見して、治療を始めることで進行を抑制することが大切です。

糖尿病は進行すると様々な合併症が起こります。特に神経、眼、腎臓に対する影響が大きいので、この3つの頭文字を取って「**し(神経)・め(眼)・じ(腎臓)**」と覚えてください。また近年の研究で、食後に血

＜インスリンの働き＞



＜血糖値スパイク＞



糖値が急激にあがる**血糖値スパイク**によって、初期の糖尿病でも心臓や脳で命にかかわる病気を引き起こす可能性があることがわかってきました。糖尿病は生活習慣と関連が強い病気です。食事療法や運動療法を続けることで進行の抑制に繋がります。すでに糖尿病の治療を行っていても血糖値が下がらない方は、かかりつけ医に紹介状を書いていただき受診するようお願いいたします。詳細は動画をご覧ください。

全身に影響が及ぶ内分泌の主な病気

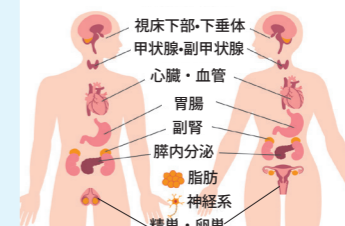
～甲状腺機能異常・原発性アルドステロン症～



糖尿病・代謝・内分泌内科 大橋 謙之亮 診療部長

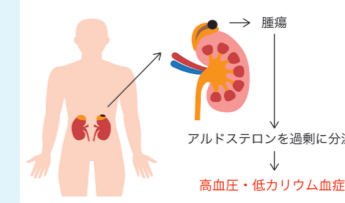
内分泌というのは、ホルモンにより身体の機能を調整するシステムのことです。ホルモンは、下垂体、甲状腺、心臓・血管、胃腸、副腎、脂肪、精巣・卵巣など様々な臓器や組織でつくられています。内分泌疾患によりホルモンが増減することで、全身に様々な影響を与えます。

全身にある内分泌器官



内分泌の病気はたくさんありますが、甲状腺機能異常は頻度が非常に高いです。甲状腺ホルモンが増える**甲状腺機能亢進症(バセドウ病)**、ホルモンが減る**甲状腺機能低下症(橋本病)**などがあります。

原発性アルドステロン症



他に、**原発性アルドステロン症**は高血圧を起こす内分泌の病気です。高血圧のおよそ10%程度の方が、この病気が原因であるともいわれています。副腎の腫瘍を手術することで高血圧が治る可能性もあります。

内分泌に関わる病気はたくさんあります。不調が長く続いていても原因がはっきりしない場合は、内分泌の機能障害かもしれません。しっかり検査することが重要です。

動画概要



JIKEI VIDEOS

糖尿病の合併症「**し・め・じ**」を予防
～無理なく続ける食事・運動・薬物療法～

糖尿病・代謝・内分泌内科 西村 理明 診療部長

全身に影響が及ぶ内分泌の主な病気
～甲状腺機能異常・原発性アルドステロン症～

糖尿病・代謝・内分泌内科 大橋 謙之亮 診療部長

詳細については、QRコードを読み取り動画をご視聴ください。



YouTube

Column 新任講座担当教授 紹介



解剖学講座
(神経科学分野)
久保 健一郎

脳の正常発生に関する研究と精神疾患の病態に関する研究を並行して進めて参りました。引き続き研究を進めつつ、本学の教育と研究の発展に貢献できるように尽力して参ります。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

- 略歴： 1998年 慶應義塾大学医学部卒業
2002年 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程卒業
慶應義塾大学 助手(医学部解剖学)
2003年 慶應義塾大学病院 研修医(精神・神経科)
2005年 慶應義塾大学 特別研究助手(医学部解剖学)
2009年 慶應義塾大学 助教(医学部解剖学)
2013年 慶應義塾大学 専任講師(医学部解剖学)
2017年 慶應義塾大学 准教授(医学部解剖学)
2021年 東京慈恵会医科大学 解剖学講座 教授
2025年 東京慈恵会医科大学 解剖学講座 講座担当教授

● 出身地：愛媛県松山市

● 趣味・特技：テニス

2025年4月1日公示

Column 新任講座担当教授 紹介



内科学講座
(循環器内科)
徳田 道史

次世代を担う循環器専門医の育成に力を注ぐとともに、診療・教育・研究のすべてにおいて活気ある循環器内科を築いてまいります。心不全・不整脈・構造的な疾患・虚血性心疾患など循環器診療全体を再構築し、地域に信頼される中核科を目指して邁進いたします。何卒よろしくお願い申し上げます。

- 略歴： 2002年 3月 東京慈恵会医科大学 医学部医学科 卒業
2008年 4月 東京慈恵会医科大学 循環器内科 助教
2010年 6月 米国ハーバード大学 プリガム アンド ウィメンズ病院 研究員
2012年 10月 東京慈恵会医科大学 循環器内科 助教
2019年 11月 東京慈恵会医科大学 循環器内科 講師
2021年 4月 慈恵医大 葛飾医療センター 循環器内科医長 講師
2025年 4月 東京慈恵会医科大学 内科学講座(循環器内科) 講座担当教授

● 出身地：神奈川県横浜市

● 趣味・特技：ワイン、ジム通い

2025年4月1日公示



細胞生理学講座
山本 慎也

歴代の先生方の志を引き継ぎ、生理学の面白さを若い世代に伝えることが出来れば幸甚でございます。本学の益々の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 略歴： 2000年 東京大学医学部医学科卒業
2003年 筑波大学大学院医学研究科(生理学専攻) 博士課程修了
2003年 産業技術総合研究所 研究員
2008年 米国国立衛生研究所 訪問研究員
2013年 産業技術総合研究所 主任研究員
2022年 筑波大学大学院 准教授(連携大学院)
2025年 東京慈恵会医科大学 細胞生理学講座 講座担当教授

● 出身地：東京

● 趣味・特技：自然観察、音楽鑑賞、ボート(学生時代)

2025年4月1日公示



救急災害医学講座
(危機管理・救命分野)
田上 隆

次世代を担う救急医・医療人の育成に努めるとともに、実臨床に直結するエビデンスの創出と社会貢献を目指してまいります。全人的医療の実践と信頼される救命救急体制の構築に向けて、救急医療・救急医学のさらなる発展に尽力してまいります。皆様のご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

- 略歴： 2002年 順天堂大学 医学部 卒業
2004年 日本医科大学救急医学教室 救命救急センター勤務
2013年 東京大学大学院公共健康医学専攻修了
2017年 Duke-NUS医科大学(シンガポール) 常勤研究員
2018年 日本医科大学多摩永山病院 救命救急センター 病院講師
2019年 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター 講師
2021年 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター 准教授
2025年 東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座(危機管理・救命分野) 講座担当教授

● 出身地：東京都

● 趣味・特技：バレーボール

2025年3月1日公示

新たな組織の紹介

研究推進センター

New Organization



センター長 志賀 剛

倫理性・科学的妥当性・専門性を持って研究者に伴走し、研究の完遂、研究成果の社会実装までサポートします。

東京慈恵会医科大学研究推進センターは、本学で行われる研究を対象に、研究のスタートから成果の実現、さらには出口戦略までを一貫して支援するために、研究推進課URA部門と臨床研究支援センターを統合し、令和7年1月に新たに設立されました。

本センターには、研究IR (Institutional Research)・戦略企画部門、研究開始支援部門、産学官連携・知的財産部門、臨床研究部門の4つの部門が置かれ、各部門の専門家が緊密に連携しながら、シームレスに研究者をサポートいたします。これにより基礎研究から臨床研究に至るまで、研究・開発のフェーズに応じた支援が可能となります。



研究推進センターメンバー

の効果的な記載、研究結果の解釈に関する補佐を行っています。2025年度の科学研究助成事業(科研費)の申請書作成には総申請件数263件中の78件に対応しました。

産学官連携・知的財産部門

本学研究者の産学官連携活動を推進するため、学外機関との研究枠組み相談や各種契約締結支援を行っています。また、研究成果に基づく知的財産について、発明相談、知財戦略アドバイス、特許出願の手続き支援、権利の維持管理、出願技術の企業導出支援を行っています。学内発ベンチャーの設立に際しては、事業構想・計画のアドバイス、設立に向けた各種手続きの支援を行っています。2024年度は20件の特許出願を行い、45件の各国移行手続き、19件の審査請求を行い、さらに技術導出先企業と実施許諾契約を9件締結しました。

臨床研究部門

本学における臨床研究の適切な実

施と振興を図るため、臨床研究を立案・実施する研究者に対して、研究計画書等作成支援、統計解析、データマネジメント業務、モニタリング業務、CRC業務、教育、その他臨床研究の実施に係わる全般的な相談受付などの支援を行っています。2024年度は43課題の新規相談に対応、その他、契約書、倫理審査手続き、特定臨床研究への該当性の確認などの相談に対応しています。

東京慈恵会医科大学の学祖、高木兼寛先生は1884年に脚気の原因解明に向けた重要な研究(遠洋航海実験)を行い、日本の疫学研究の先駆けとなりました。この研究は、多人数を対象とした介入研究であり、今日というエビデンスを創出したものでした。

このような歴史的な背景を持つ東京慈恵会医科大学から、優れた医学研究が生まれるよう、私たちは全力で研究者をサポートしていきます。

研究IR・戦略企画部門

学内外の研究活動に関する情報収集や調査分析を行うことによって、本学の特長や課題に応じた研究戦略企画の提案、異分野連携を含めた研究者間のマッチング、個々の研究者の支援を効率的・効果的に行なうための情報提供を行っています。また、患者さんの思いに応える研究を推進するため、社会実装戦略相談や広報戦略企画も行っています。

研究開始支援部門

本学の教員が、研究を開始するにあたり、疑問を整理するのに必要な情報の収集、収集した情報を用いて問題の本質を明らかにするための考え方、問題を解決するための課題設定および具体的な取組み手順、必要資金の調達方法の調査、学内外の競争的研究費の申請書

Topics

一般社団法人・慈恵医師会

創設70周年をむかえて



慈恵医師会会長
落合 和彦
(東京都医師会・理事)

医師会の前身である「大日本医師会」における高木兼寛の関わり

明治期にはいり全国各地に医師の組織が自然発生的に存在してきましたが、全国的に西洋医(西洋医学を履修した医師)が団結しようという機運が高まり、明治26年(1893)に高木兼寛や北里柴三郎などにより初めての全国的組織である大日本医師会(会長:高木兼寛)が設立されました。明治末期から大正初期になると大学や医学専門学校で正規の医学教育を受けて卒業した医師が増え、医師の資質の向上や医業権益の確保のために医師会設立の運動を始め、大正8年(1919)の帝国議会で医師法が改正されました。これにより郡市区医師会と道府県医師会(まだ東京は東京府であった)には医師会が強制的に設立されることになり、法人格が与えられました。この全国的な動きにより大正12年(1923)日本医師会創立総会が開催され、北里柴三郎を初代会長として、医師法の定めによる日本医師会が誕生することになります。

戦前の医師会組織から戦後の日本医師会へ 東京都医師会の整備—大学医師会の設置—

昭和17年(1942)に第二次世界大戦の影響で一度解散しますが、戦後、GHQの強力な指導により、地方組織もカバーした社団法人日本医師会が昭和22年(1947)に発足します。東京においても、行政区を中心としてそれまでの医師会組織を改編して組織され、都内各地域の行政組織と連携した事業が展開されてきました。大学医師会もそれぞれの立場により、医育機関としての機能を発揮してきましたが、地域の中で保健衛生、救急医療を担ってきたことにより、行政と連携した医療活動が次第に認識されるようになってきました。大学医師会としては東京大学がはじめて昭和23年(1948)に医師会を組織し、次いで慶応が昭和28年(1953)に医師会を組織します。当然、慈恵にも医師会を作るべきとの機運が学内外で湧き上がっていたようです。東京都医師会としても都内の地域医療を高次施設として支え、救急医療をはじめとした医療支援を充実させたいとする当時の東京都医師会小畑惟清会長からの強力な要請もあったとされています。小畑会長は浜田病院の院長として自らの病院敷地を東京都医師会に供出するなどして医師会の活性化に努め、都内医師会の組織化に尽力されたとされています。話は逸れますが、小畑は民間病院院長としては唯一日本産科婦人科学会を会長として主宰するなど学術的にも大きな業績を残した関係から当時同学会の重鎮でもあった本学の樋口一成学長にも慈恵医師会の創設を勧めていたとしても不思議ではありません。その結果、昭和30年(1955)慈恵医師会が発足し、初代会長として樋口一成が就任しました。



慈大新聞昭和29年(1954年)1月発行 第31号3ページ

慈恵医師会は原則として本学を本務とする医師で構成され、現在約400人の会員を擁しています。その後70年の歴史の中で歴代役員により慈恵医師会としての発展を続け、現在は一般社団法人として学校法人である慈恵大学とは別組織として側面から支援を行っています。

平成年代にはいり、他大学のほとんどが医師会を組織し、現在に至っています(杏林大学のみ三鷹市医師会に所属している)。慈恵医師会の主な事業としては、若手研究者に対して「学術奨励賞」を設け研究助成行っております。また慈恵医師会主催の産業医研修会は、例年多くの申し込みがあり会員からも好評を得ています。さらに海外実習の6年生を対象とした「渡航費補助事業」、会員が主宰する学会を支援する「学会補助金」事業などのほか、日本医師会、東京都医師会、行政からの通知、連絡、東京都大学医師会連絡協議会などを通じ、他大学医師会との連携なども慈恵医師会の重要な仕事であります。大学医師会としての歴史も長いこともあって、歴代役員のうち何人かは東京都医師会役員として東京都医師会、日本医師会を支えています。

歴代会長	就任年	会長	副会長
初代	昭和30年	樋口一成	片山良亮
2代	昭和38年	片山良亮	土肥淳一郎
3代	昭和40年	古閑義之	土肥淳一郎
4代	昭和42年	土肥淳一郎	渡辺行正
5代	昭和46年	南武	渡辺行正
6代	昭和50年	渡辺行正	高橋良
7代	昭和52年	上田泰	國分義行
8代	昭和54年	國分義行	阿部正和
9代	昭和56年	蜂屋祥一	宮原正
	平成元年	蜂屋祥一	小林建一
10代	平成7年	小林建一	寺島芳輝
11代	平成11年	寺島芳輝	青木照明
	平成13年	寺島芳輝	大石幸彦
	平成15年	寺島芳輝	北原健二
	平成17年	寺島芳輝	細谷龍男
12代	平成21年	上出良一	落合和彦
13代	平成25年	落合和彦	福田国彦

2024年11月から2025年6月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

大学公報

行事

- 令和7年、全機関同時開催(テレビ会議システム)による新年挨拶交歓会を下記の通り行った。

1. 日時 令和7年1月4日(土)午後4時より
2. 場所 ・法人、大学、附属病院 2号館講堂
・葛飾医療センター 講堂A・B・C
・附属第三病院 看護学科大講堂
・附属柏病院 C棟2階G会議室

- 小谷野 康子教授(看護学科 精神看護学領域)の最終講義を下記の通り行った。

1. 日時 令和7年1月18日(土)午後3時より
2. 場所 看護学科大講堂
(国領校看護学科校舎一階)

- 吉村 道博教授の退任記念講義を下記の通り行った。

1. 日時 令和7年1月31日(金)午後3時より
2. 場所 大学1号館講堂(3階)

- 第100回医学科 第30回看護学科卒業式が下記の通り挙行された。

1. 日時 令和7年3月6日(木)午後1時30分より
2. 場所 2号館講堂

- 慈恵看護専門学校並びに看護専門学校合同卒業式が下記の通り挙行された。

慈恵看護専門学校
1. 日時 令和7年3月8日(土)午後10時より
2. 場所 2号館講堂

慈恵第三看護専門学校 慈恵柏看護専門学校
合同卒業式

1. 日時 令和7年3月8日(土)午後2時より
2. 場所 2号館講堂

- 東日本大震災発生十四年となる3月11日における弔意を表す為、次の事が実施された。

1. 日時 令和7年3月11日(火)
2. 弔旗を掲揚する
3. 午後2時46分を期して黙とう1分間

- 慈恵看護専門学校、慈恵第三看護専門学校、並びに慈恵柏看護専門学校合同入学式を下記の通り挙行された。

1. 日時 令和7年4月4日(金)午前10時より
2. 場所 2号館講堂

- 令和7年度入学式が下記の通り挙行された。

1. 日時 令和7年4月10日(木)午後2時より
2. 場所 2号館講堂

公示

- 2024年11月29日

故 柴 孝也客員教授に次の叙位がありました。
正六位

- 2024年12月2日

年末年始の休業を下記の通りとする
令和6 年12月29日(日)より
令和7 年 1月 3日(金)まで

- 2024年12月26日

飯田 誠教授に、葛飾医療センター院長を命ずる
(就任年月日 2025年4月1日)
平本 淳教授に、附属第三病院院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

吉田 博教授に、附属柏病院院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

山田 恭輔教授に、慈恵第三看護専門学校長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

忽滑谷 和孝教授に、慈恵柏看護専門学校長を命ずる

(就任年月日2025 年4 月1 日)

- 2025年1月1日

大学 研究倫理推進センターは、研究倫理センターに名称変更する

大学 臨床研究支援センターは、研究推進セン

大学公報

ターに名称変更する

秋山 真紀准教授に、教授を命ずる

藤井 英紀准教授に、教授を命ずる

山内 秀樹講師に、准教授を命ずる

矢野 真人氏に、准教授を命ずる

山本 和央講師に、准教授を命ずる

池田 浩平講師に、准教授を命ずる

朝比奈 昭彦氏に、附属柏病院皮膚科診療部長(兼任)を命ずる

- 2025年1月4日

被懲戒処分者 医師

処分決定日 2024年12月26日

処分の種類 減給

就業規則第102条第4号に該当

事案の概要

被懲戒者は、部下に対してパワーハラスメントやセクシュアルハラスメントを行い、職場内の秩序や風紀を乱した。本行為は学校法人慈恵大学ハラスメント防止規程第2条第1号「セクシュアルハラスメント」、第2号「パワーハラスメント」に該当し、学校法人慈恵大学行動規範第4条「人間の尊重」及び就業規則第36条「サービスの基本的原則」第2項に違反する行為である。就業規則第102条「減給」第4号の該当とし、就業規則第100条第2号「減給」処分とした。

- 2025年1月23日

横尾 隆教授、岡部 正隆教授に、副学長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

松藤 千弥教授に、大学院医学研究科長を兼務とする

(就任年月日 2025年4月1日)

横尾 隆教授に、医学科長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

北 素子教授に、看護学科長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

尾尻 博也教授に、学術情報センター長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

岡野 ジェイムス洋尚教授に、総合医科学研究センター長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

中村 真理子教授に、教育センター長を命ずる
(就任年月日 2025年4月1日)

二川 一男氏に、顧問を委嘱する

(就任年月日 2025年4月1日)

藤原 誠氏に、顧問を委嘱する

(就任年月日 2025年4月1日)

梅澤 祐二氏に、常勤顧問を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

加藤 一人氏に、事務局長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

中村 敬氏に、参与を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

横山 秀彦氏に、参与を命ずる

(就任年月日 2025年2月1日)

- 2025年2月1日

福田 紀男准教授に、教授を命ずる

千田 実准教授に、特任教授を命ずる

(特任期間 2025年2月1日～2027年3月31日)

菅 一成講師に、准教授を命ずる

小川 俊平講師に、准教授を命ずる

中野 匡氏に、葛飾医療センター眼科診療部長(兼任)を命ずる

- 2025年2月27日

瀧浪 将典教授に、附属病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

中野 匡教授に、附属病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

矢野 真吾教授に、附属病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

斎藤 充教授に、附属病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

大石 公彦教授に、附属病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

玉上 淳子看護部長に、附属病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

根本 昌実教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

大学公報

小川 匡市教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

山田 裕紀准教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

岡本 友好教授に、附属第三病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

池田 圭一教授に、附属第三病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

藤井 英紀教授に、附属第三病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

小澤 かおり看護部長に、附属第三病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

西脇 嘉一教授に、附属柏病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

高野 浩邦教授に、附属柏病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

戸谷 直樹教授に、附属柏病院副院長を命ずる

(就任年月日 2025年4月1日)

● 2025年3月1日

大学 救急医学講座を救急災害医学講座に名称変更する

大学 救急災害医学講座に救急医療分野及び危機管理・救命分野を設置する

附属病院 救急科に救急部及び救命救急センターを設置する

田上 隆氏に、救急災害医学(危機管理・救命分野)講座担当教授を命ずる

松本 暁子氏に、特任教授を命ずる

(特任期間 2025年3月1日～2026年3月31日)

飯田 泰志講師に、准教授を命ずる

松下 努氏に、准教授を命ずる

● 2025年3月31日

吉村 道博教授は、定年により職を解く

木山 秀哉教授は、定年により職を解く

黒坂 大太郎教授は、定年により職を解く

渡邊 修教授は、定年により職を解く

浅野 晃司教授は、定年により職を解く

古田 希教授は、定年により職を解く

山本 裕康教授は、定年により職を解く

塚田 弘樹教授は、定年により職を解く

宮田 市郎教授は、定年により職を解く

青木 学教授は、定年により職を解く

土橋 史明教授は、定年により職を解く

吉田 正樹教授は、定年により職を解く

西川 正子教授は、定年により職を解く

上園 保仁教授は、定年により職を解く

鐘ヶ江 裕美教授は、定年により職を解く

辰野 聡教授は、定年により職を解く

芝田 貴裕教授は、定年により職を解く

石田 祐一教授は、定年により職を解く

勝沼 俊雄教授は、定年により職を解く

加藤 智弘教授は、定年により職を解く

永野 みどり看護学科教授は、定年により職を解く

小谷野 康子看護学科教授は、定年により職を解く

● 2025年4月1日

大学 学術情報センターに人工知能応用教育研究支援部門を設置する

大学 感染制御科は、内科学に編入し、感染症内科に名称変更する

大学 解剖学講座に形態科学分野及び神経科学分野を設置する

大学 教育センター 地域医療支援部門は、地域医療研究支援部門に名称変更する

附属病院 感染症科は、内科に編入し、感染症内科に名称変更する

福嶋 義光氏に、客員教授を委嘱する

乾 あやの氏に、客員教授を委嘱する

徳田 道史講師に、内科学(循環器内科)講座担当教授を命ずる

久保 健一郎教授に、解剖学(神経科学分野)講座担当教授を命ずる

山本 慎也氏に、細胞生理学講座担当教授を命ずる

谷口 郁夫氏に、特命教授を命ずる

大学公報

丸毛 啓史氏に、特命教授を命ずる

古田 希氏に、特命教授を命ずる

山本 裕康氏に、特命教授を命ずる

中村 敬氏に、特命教授を命ずる

木山 秀哉氏に、臨床専任教授を命ずる

(任命期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

加藤 智弘氏に、臨床専任教授を命ずる

(任命期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

青木 学氏に、臨床専任教授を命ずる

(任命期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

石田 祐一氏に、臨床専任教授を命ずる

(任命期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

池脇 克則氏に、臨床専任教授を命ずる

(任命期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

小高 文聰准教授に、教授を命ずる

坂谷 貴司氏に、教授を命ずる

佐貫 智行氏に、教授を命ずる

野村 浩一准教授に、特任教授を命ずる

(特任期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

原田 徹准教授に、特任教授を命ずる

(特任期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

川上 剛准教授に、特任教授を命ずる

(特任期間 2025年4月1日～2028年3月31日)

勝田 倫江講師に、准教授を命ずる

出来尾 格講師に、准教授を命ずる

佐藤 紀子教授に、看護学科客員教授を委嘱する

村田 洋章氏に、看護学科教授を命ずる

金子 眞理子氏に、看護学科教授を命ずる

山下 正和氏に、看護学科臨床教授を命ずる

小谷野 康子氏に、大学院医学研究科看護学専攻特任教授を命ずる

(特任期間 2025年4月1日～2026年3月31日)

横尾 隆教授に、医学科教学委員長を命ずる

田中 幸子看護学科教授に、看護学科教学委員長を命ずる

湊 恭輔氏に、附属柏病院放射線部診療部長代行を命ずる

田上 隆氏に、附属病院救命救急センター診療部長を命ずる

横尾 隆氏に、附属4病院内科総括責任者を命ずる

吉田 健氏に、附属病院リウマチ・膠原病内科診療部長を命ずる

徳田 道史氏に、附属病院循環器内科診療部長を命ずる

堀野 哲也氏に、附属病院感染症内科診療部長を命ずる

新 智文氏に、附属病院総合健診・予防医学センター診療部長を命ずる

小林 雅夫氏に、附属病院放射線治療部診療部長を命ずる

川上 剛氏に、葛飾医療センター放射線部診療部長を命ずる

海渡 信義氏に、葛飾医療センター中央検査部診療部長を命ずる

山口 敏行氏に、葛飾医療センター感染制御部診療部長を命ずる

宮永 哲氏に、附属第三病院循環器内科診療部長を命ずる

齋藤 健氏に、附属第三病院腫瘍・血液内科診療部長を命ずる

加藤 直樹氏に、附属第三病院脳神経外科診療部長を命ずる

内海 功氏に、附属第三病院麻酔部診療部長を命ずる

山城 健三氏に、附属柏病院糖尿病・代謝・内分泌内科診療部長を命ずる

吉川 晃司氏に、附属柏病院感染制御部診療部長を命ずる

徳田 道史氏に、附属病院CCU診療部長(兼任)を命ずる

二川 康郎氏に、附属第三病院手術部診療部長(兼任)を命ずる

高橋 直人氏に、附属柏病院手術部診療部長(兼任)を命ずる

泉 祐介氏に、附属第三病院総合診療部診療部長代行を命ずる

矢野 勝治氏に、附属第三病院精神神経科診療部長代行を命ずる

高木 健氏に、附属第三病院小児科診療部長代行を命ずる

木下 翔司氏に、附属第三病院リハビリテーション科診療部長代行を命ずる

脇 裕磨氏に、附属柏病院皮膚科診療部長代行を命ずる

Notice

大学公報

2025年度 互助会役員
会長 谷口 郁夫(専務理事)

役名	甲種役員(職員側)	乙種役員(大学側)
副会長	滝川 祐(附属病院)	加藤 一人(法人)
幹事	佐野 真一(附属病院)	川久保 孝(附属病院)
委員	星 洋輔(大学)	山本 裕康(大学)
〃	大堀 由香利(附属病院)	菊地 譲(法人)
〃	中村 平(葛飾医療センター)	相曾 好司郎(大学)
〃	高橋 真一(葛飾医療センター)	玉上 淳子(附属病院)
〃	加藤 淳史(第三病院)	星野 洋二(附属病院)
〃	黒田 祐規(第三病院)	伊藤 敬夫(葛飾医療センター)
〃	泉澤 友宏(柏病院)	峰 隆志(第三病院)
〃	鈴木 亮平(柏病院)	相馬 陽一(柏病院)
監査	山本 律子(附属病院)	濱 裕宣(附属病院)

2025年4月1日現在

職員(管理職)人事を下記の通り命ずる

No.	等級	氏名	辞令文	No.	等級	氏名	辞令文
1	九等級	大井田 亘	附属第三病院事務部次長を命ずる 附属第三病院業務課課長(兼務)を命ずる	21	七等級	近藤 洋	八等級に任ずる 葛飾医療センター業務課課長を命ずる
2	九等級	小島 順子	大学教育センター看護キャリアサポート部門(兼務)を命ずる	22	七等級	福田 徹朗	八等級に任ずる 附属第三病院管理課課長を命ずる
3	八等級	星野 洋二	九等級に任ずる 附属病院事務部部長を命ずる	23	七等級	村上 聡	八等級に任ずる 附属病院業務課課長(課付)を命ずる
4	八等級	及川 香織	九等級に任ずる	24	七等級	前田 慶子	八等級に任ずる
5	八等級	丸山 弘美	九等級に任ずる	25	七等級	前田 雅美	八等級に任ずる
6	八等級	天童 大介	九等級に任ずる 附属病院臨床工学部技士長を命ずる	26	七等級	北條 文美	八等級に任ずる
7	八等級	安部 一之	法人事務局教員・医師人事室課長を命ずる	27	七等級	松澤 真由子	八等級に任ずる 附属病院感染対策部主事を命ずる
8	八等級	横井 由紀枝	附属柏病院業務課課長を命ずる	28	七等級	黒川 和美	八等級に任ずる
9	八等級	片 悦子	葛飾医療センター管理課課長を命ずる	29	七等級	富士田 恭子	八等級に任ずる 葛飾医療センター看護部師長を命ずる
10	八等級	金子 文成	法人事務局企画課課長を命ずる	30	七等級	石崎 雅俊	八等級に任ずる 附属病院放射線部技師長補佐を命ずる
11	八等級	嶋田 裕子	大学教育センター看護キャリアサポート部門主事を命ずる	31	七等級	北川 久	八等級に任ずる 附属第三病院放射線部技師長補佐を命ずる
12	八等級	藍山 博之	附属柏病院薬剤部課長を命ずる	32	七等級	中村 高良	八等級に任ずる 葛飾医療センターリハビリテーション科技師長を命ずる
13	八等級	島崎 博士	附属病院薬剤部課長補佐を命ずる	33	七等級	樋口 卓見	法人事務局総務課係長(課長業務代行)を命ずる
14	八等級	野口 景司	附属第三病院放射線部技師長を命ずる	34	七等級	滝川 祐	附属病院管理課係長(課長業務代行)を命ずる 附属病院港区立がん在宅緩和ケア支援センター係長(課長業務代行)(兼務)を命ずる
15	八等級	宮本 博康	附属第三病院中央検査部技師長を命ずる				
16	八等級	久保 敬信	附属病院中央検査部技師長補佐を命ずる				
17	八等級	鈴木 晴美	附属病院晴海トリニククリニック技師長補佐を命ずる				
18	八等級	齊藤 正二	葛飾医療センター中央検査部技師長補佐を命ずる				
19	八等級	岩谷 理恵子	附属第三病院臨床工学部技士長を命ずる				
20	七等級	實原 靖子	八等級に任ずる 法人事務局企画課課長補佐を命ずる				

(2025年4月1日)

Notice

大学公報

● 2025年4月1日

内田 満氏に、名誉教授の称号を贈る

吉村 道博氏に、名誉教授の称号を贈る

堀 誠治氏に、名誉教授の称号を贈る

浅野 晃司氏に、名誉教授の称号を贈る

黒坂 大太郎氏に、客員教授を委嘱する

宮田 市郎氏に、客員教授を委嘱する

勝沼 俊雄氏に、客員教授を委嘱する

渡邊 修氏に、客員教授を委嘱する

吉田 正樹氏に、客員教授を委嘱する

鐘ヶ江 裕美氏に、客員教授を委嘱する

土橋 史明氏に、客員教授を委嘱する

岡部 正隆教授に、解剖学講座総括責任者を命ずる

吉田 清嗣教授に、大学院医学研究科医学系専攻長を命ずる

小谷野 康子教授に、大学院医学研究科看護学専攻長を命ずる

川目 裕教授に、大学院医学研究科医科学専攻長を命ずる

吉田 健氏に、附属4病院リウマチ・膠原病内科総括責任者を命ずる

徳田 道史氏に、附属4病院循環器内科総括責任者を命ずる

常喜 達裕氏に、附属4病院総合診療部総括責任者を命ずる

堀野 哲也氏に、附属4病院感染症内科・感染制御部総括責任者を命ずる

橋本 亮太氏に、連携大学院教授を命ずる

浜村 俊傑氏に、連携大学院准教授を命ずる

● 2025年4月17日

来る5月1日(木)は、本学創立記念日につき、休業とする

● 2025年5月1日

ハシチウオヴイッチ トマシユ講師に、特任准教授を命ずる

(特任期間 2025年5月1日～2028年3月31日)

佐竹 澄子看護学科講師に、看護学科准教授を命ずる

務臺 理恵子看護学科講師に、看護学科准教授を命ずる

竹内 千仙氏に、附属病院遺伝診療部診療部長を命ずる

● 2025年6月1日

虻川 有香子准教授に、教授を命ずる

山川 健太郎准教授に、教授を命ずる

小黑 明広講師に、准教授を命ずる

鈴木 一史講師に、准教授を命ずる

都筑 俊介講師に、准教授を命ずる

湯坐 有希講師に、准教授を命ずる

学事

● 大学院修了者

2024. 12. 25 大瀬戸 宏綱 松井 基浩 本澤 訓聖

2025. 2. 12 佐野 圭 安武 れい 平野 雅史

2025. 2. 26 山中 将太

(看護学専攻 博士後期課程)

2025. 3. 19 坂木 孝輔

(看護学専攻 博士前期課程)

2025. 3. 19 林田 茉弓 小嶋 万里奈 吉田 早苗

大谷 優介 野原 香葉子 山下 愛美

高梨 和恵 牧之瀬 稔 萩野 裕夏

2025. 4. 9 木原 匠 渡邊 貴史

2025. 4. 23 加藤 一彦 横山 和樹 名波 勇人

2025. 5. 14 久田 泉 齋藤 真希

2025. 5. 28 中野 貴文

(医学系専攻 博士課程)

2025. 3. 12 小田 哲明 外園 晶子 浅原 有揮

五十嵐 陽介 竹内 理華

2025. 3. 26 石津 賢一 石本 詩子 月原 秀

金久保 祐介 里井 義尚

大学公報

● 学位論文通過者

2024.12.11	小松 功生士 藤村 宗一郎	2025.3.12	原田 篤 船木 隆司 増谷 祐人
2024.12.25	堤 由希 中島 啓吾 松岡 知奈 黒川 学	2025.3.26	酒巻 大輔
2025.1.22	脇 裕磨 奥山 虎章	2025.4.9	福島 啓介
2025.2.12	齋藤 恵介 小川 恭平 宮川 晋治	2025.4.23	結束 寿 兒玉 浩希
2025.2.26	中田 達也 田代 康次郎 館 林太郎 武政 洋一 柳澤 毅	2025.5.14	野田 祐基 岡田 晋一 入村 雄也
		2025.5.28	栢野 想太郎 天神 彩乃

訃報

- ▶ 岡野 弘客員教授(旧第三病院第2内科)は、12月20日逝去されました。
- ▶ 米本 恭三名誉教授(リハビリテーション医学講座)は、12月23日逝去されました。
- ▶ 植松 幹雄非常勤講師(内科学講座(消化器・肝臓内科))同窓会 新宿支部長は、1月2日逝去されました。
- ▶ 牛込 新一郎客員教授(病理学講座)は、1月16日逝去されました。
- ▶ 白崎 嘉昭元教授(国領校 外国語教室 初修外国語研究室)は、令和5年6月23日逝去されました。
- ▶ 神山 稔枝看護教員(柏看護専門学校)は、2月1日逝去されました。

東京慈恵会公報

● 教職員人事

(慈恵看護専門学校)

2025年4月1日	昇級 6等級・看護教員	大滝 佐織	5等級・看護教員
	昇級 5等級・看護教員	千葉 早希子	4等級・看護教員
	昇級 5等級・看護教員	柏倉 宏美	4等級・看護教員
	昇級 4等級・看護教員	田邊 ひとみ	3等級・看護教員
	昇級 4等級・看護教員	田原 裕美子	3等級・看護教員
	昇級 4等級・事務員	平山 千鶴	3等級・事務員

● 行事

- 2025年3月 8日(土) 慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。卒業生92名
- 2025年3月11日(火) 東京慈恵会理事会・評議員会・総会が開催された。
- 2025年4月 4日(金) 慈恵看護専門学校入学式が挙行された。入学生(76期生)74名

補助金・助成金

2024年度
科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧

1. 科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(2023年度、2024年度) (単位:千円)

研究種目	2023年度			2024年度		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	1	3,400	1,020	0	0	0
基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	24	83,200	24,960	22	79,000	23,700
基盤研究(C)	142	141,520	41,469	137	138,680	41,604
挑戦的研究(萌芽)	9	22,100	6,630	5	10,600	3,180
挑戦的研究(開拓)	0	0	0	1	6,900	2,070
若手研究	81	90,678	26,970	71	78,300	23,490
研究活動スタート支援	5	5,000	1,500	3	2,500	750
特別研究員奨励費	1	800	0	2	2,900	240
国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)	1	14,400	4,320	0	0	0
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)	0	0	0	1	12,000	3,600
学術変革領域研究(A)	1	11,600	3,480	2	12,500	3,750
学術変革領域研究(B)	1	2,000	600	1	8,200	2,460
合計	266	374,698	110,949	245	351,580	104,844

2. 科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(新規採択分+継続分) (単位:千円)

研究種目	2024年度(継続分)			2024年度(新規採択分)		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	0	0	0	0	0	0
基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	16	49,500	14,850	6	29,500	8,850
基盤研究(C)	96	79,480	23,844	41	59,200	17,760
挑戦的研究(萌芽)	3	6,700	2,010	2	3,900	1,170
挑戦的研究(開拓)	0	0	0	1	6,900	2,070
若手研究	49	47,600	14,280	22	30,700	9,210
研究活動スタート支援	1	400	120	2	2,100	630
特別研究員奨励費	0	0	0	2	2,900	240
国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)	0	0	0	0	0	0
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)	0	0	0	1	12,000	3,600
学術変革領域研究(A)	1	10,600	3,180	1	1,900	570
学術変革領域研究(B)	1	8,200	2,460	0	0	0
合計	167	202,480	60,744	78	149,100	44,100

注)①採択件数は、独立基盤形成支援を含み、年度途中の転入者及び転出者は除く。
②延長(基金)、繰越(補助金)、学外分担者を除く。

財務報告

2024年度(令和6年度)決算

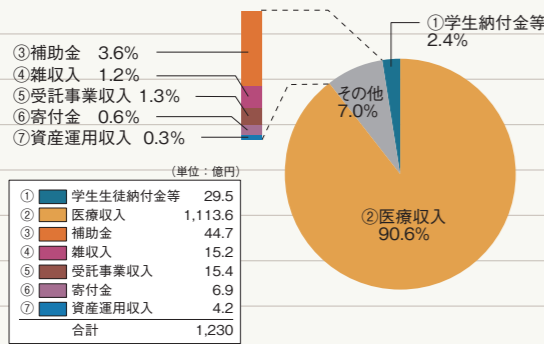
1.はじめに

2024年度は、2023年度に最終利益である基本金組入前当年度収支差額が19期ぶりに赤字となったことから、連続赤字の回避、黒字化を目指し大学全体で1年間取り組んできました。大学を取り巻く環境は、コロナが沈静化した一方で人件費、物価の上昇により医科大学業界全体において大変厳しいものとして続いています。本学においては最終利益である基本金組入前当年度収支差額の黒字化を実現し、予算も達成することができました。一年間の本学全体の努力が結実したものであり評価されるものです。

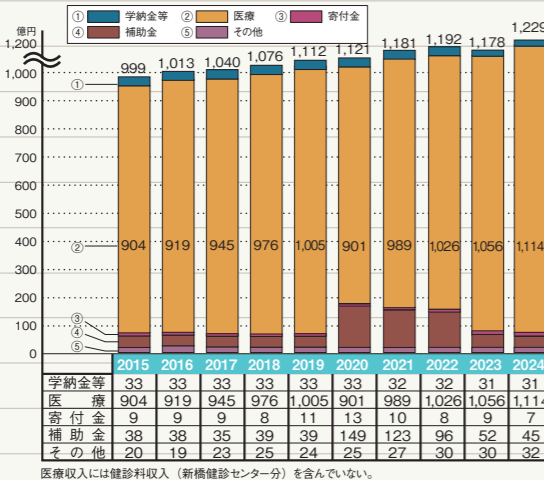
2.資金収支計算書

施設関係支出は112.3億円、設備関係支出は38.6

2024年度(令和6年度)事業活動収入の構成



事業活動収入の推移 2015年度(平成27年度)~2024年度(令和6年度)

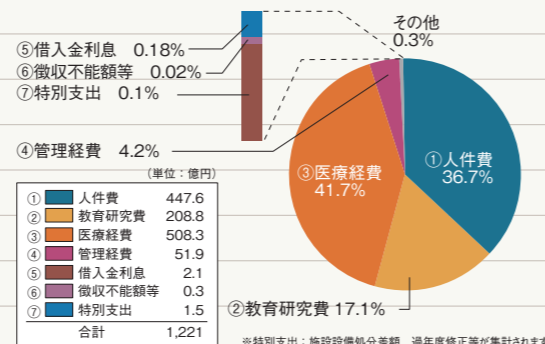


億円でした。施設関係の主な支出は、建物が15.1億円、第三病院のリニューアルに伴う建設仮勘定97.2億円の支払い、設備関係の主な支出は医療器械16.4億円、システム関連21.0億円の支払いでした。この結果、次年度繰越金は515.0億円と前年度比123億円減少しました。これ以外に本学は有価証券を346.5億円保有している為、前期末の現金預金有価証券残高は861.5億円となります。

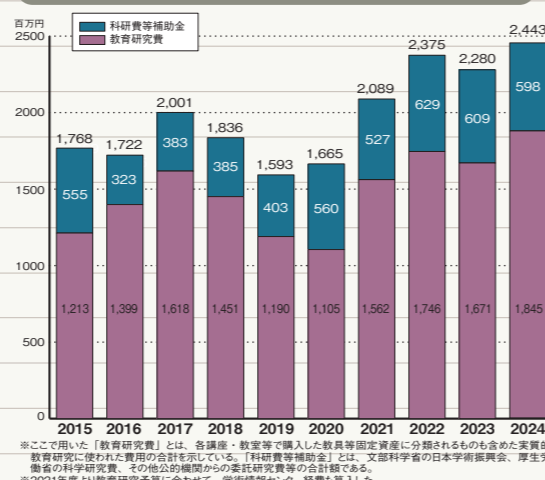
3.事業活動収支計算書

医療収入は1,113.6億円(予算比▲16.2億円)、医療収支(医療収入－医療経費)は635.5億円(予算比▲26.2億円)と予算に届きませんでした。2023年度603.2億円を32億円上回り、コロナ前の2019年

2024年度(令和6年度)事業活動支出の構成



教育研究費の推移 2015年度(平成27年度)~2024年度(令和6年度)



財務報告

度の医療収支618.4億円を超えることができました。補助金について、感染対策補助金はありませんでした。結果、基本金組入前当年度収支差額は9.1億円となり予算を達成することができました。

4.貸借対照表

建設仮勘定の増加分97.2億円は純資産増加分9.1億円と残りを現預金減少分の一部88.1億円から生じています。建物減少分33.5億円、医療器械減少分7.5億円は主に減価償却進行によるものですが長期借入金減少分(返済)13.1億円と有価証券(長期)23.0億円が支えています。貸借対照表の安全性、健全性を表す代表的な指標である自己資金比率など主要な指標については引き続き良好水準を維持しています。

2024年度(令和6年度)事業活動収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出		教育活動収入	
人件費	44,755,476,048	学生生徒納付金	2,954,750,000
教育研究経費	71,709,542,401	手数料収入	139,413,900
教育研究経費	20,879,923,191	寄付金収入	650,711,169
医療経費	50,829,619,210	常務等補助金	4,287,687,677
管理経費	5,186,988,176	事業収入	112,900,995,861
		医療収入	111,362,377,831
		受託事業収入	1,538,618,030
徴収不能額等	28,361,223	雑収入	1,377,000,712
徴収不能引当金繰入額	28,361,223	(徴収不能引当金戻入額)	2,472,740
教育活動支出計	121,680,367,848	教育活動収入計	122,242,559,319
		教育活動収支差額	562,191,471
教育活動外支出		教育活動外収入	
借入金等利息	214,115,838	その他の受取利息・配当金	417,765,483
教育活動外支出計	214,115,838	教育活動外収入計	425,093,315
		経常収支差額	773,168,948
特別支出		特別収入	
資産処分差額	153,673,711	資産売却差額	0
その他の特別支出	0	その他の特別収入	289,509,980
過年度修正額	0	施設設備寄付金	68,000,000
		現物寄付	37,256,980
特別支出計	153,673,711	施設設備補助金	184,253,000
		過年度修正額	0
		特別収入計	289,509,980
基本金組入前当年度収支差額	909,005,217	特別収支差額	135,836,269
		基本金組入額合計	△11,963,836,692
		当年度収支差額	△11,054,831,475
		前年度繰越収支差額	△57,738,163,091
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△68,792,994,566
事業活動支出計	122,048,157,397	事業活動収入計	122,957,162,614

(参考) 令和7年6月文部科学省へ提出 (単位:円)

2024年度(令和6年度)資金収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	44,885,596,598	学生生徒納付金収入	2,954,750,000
教育研究経費支出	63,762,056,659	手数料収入	139,413,900
教育研究経費支出	15,148,640,100	寄付金収入	650,711,169
医療経費支出	48,613,416,559	補助金収入	4,471,940,677
管理経費支出	4,338,522,903	国庫補助金	3,637,450,761
		地方公共団体補助金	832,389,916
		その他の補助金	2,100,000
		事業収入	112,908,323,693
		医療収入	111,362,377,831
		受託事業収入	1,538,618,030
		収益事業収入	7,327,832
借入金等支払利息支出	214,115,838	受取利息・配当金収入	417,765,483
借入金等返済支出	1,778,570,000	資産売却収入	0
施設関係支出	11,233,489,718	雑収入	1,374,527,972
設備関係支出	3,863,482,828	借入金収入	0
資産運用支出	10,805,100,000	前受金収入	653,560,800
その他支出	22,174,902,064	その他の収入	27,646,206,146
資金支出調整勘定	△21,624,302,798	資金収入調整勘定	△22,084,352,917
期末未払金	△21,624,302,798	期末未収入金	△21,563,177,117
		前期末前受金	△531,175,800
次年度繰越支払資金	51,497,073,979	前年度繰越支払資金	63,795,760,866
支出の部合計	192,928,607,789	収入の部合計	192,928,607,789

令和7年6月文部科学省へ提出 (単位:円)

2024年度(令和6年度)貸借対照表

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	161,534,650,943	153,154,496,330	8,380,154,613
有形固定資産	126,771,594,210	120,755,552,269	6,016,041,941
土地	9,049,612,502	9,049,612,502	0
建物	82,399,165,290	85,746,644,628	△3,347,479,338
構築物	181,473,198	218,786,251	△37,313,053
教育研究用機器備品	19,564,554,623	19,731,333,352	△166,778,729
管理用機器備品	867,444,433	1,009,113,730	△141,669,297
図書	2,831,859,638	2,842,165,068	△10,305,430
車両	4,565,632	9,130,664	△4,565,032
建設仮勘定	11,849,757,286	2,125,604,166	9,724,153,120
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給付引当資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	33,163,056,733	30,798,944,061	2,364,112,672
差入保証金	402,084,513	401,615,013	469,500
有価証券	32,153,363,220	29,853,363,220	2,300,000,000
長期貸付金	607,609,000	543,965,828	63,643,172
ソフトウェア	0	0	0
流動資産	77,032,563,700	86,033,795,516	△9,001,231,816
現金預金	51,497,073,979	63,795,760,866	△12,298,686,887
未収入金	21,411,025,032	19,778,011,765	1,633,013,267
貯蔵品	1,432,845,837	1,260,236,217	172,609,620
有価証券	2,500,000,000	1,000,000,000	1,500,000,000
仮払金	191,618,852	199,786,668	△8,167,816
資産の部合計	238,567,214,643	239,188,291,846	△621,077,203
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	42,401,573,159	44,170,774,860	△1,769,201,701
長期借入金	21,282,300,000	22,589,120,000	△1,306,820,000
長期未払金	327,832,894	660,094,045	△332,261,151
退職給付引当金	20,791,440,265	20,921,560,815	△130,120,550
流動負債	24,191,268,639	23,952,149,358	239,119,281
短期借入金	1,306,820,000	1,778,570,000	△471,750,000
未払金	21,624,302,798	21,119,503,457	504,799,341
前受金	653,160,800	530,775,800	122,385,000
預り金	605,860,041	522,435,101	83,424,940
保証金	1,125,000	865,000	260,000
負債の部合計	66,592,841,798	68,122,924,218	△1,530,082,420
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	240,767,367,411	228,803,530,719	11,963,836,692
第1号基本金	231,914,796,549	220,057,333,903	11,857,462,646
第4号基本金	8,852,570,862	8,746,196,816	106,374,046
翌年度繰越収支差額	△68,792,994,566	△57,738,163,091	△11,054,831,475
繰越収支差額	△68,792,994,566	△57,738,163,091	△11,054,831,475
純資産の部合計	171,974,372,845	171,065,367,628	909,005,217
負債及び純資産の部合計	238,567,214,643	239,188,291,846	△621,077,203

令和7年6月文部科学省へ提出 (単位:円)

財務報告

2025年度(令和7年度)予算

1. 予算編成方針

・例年は8月の夏季常任理事会で検討された長期資金計画の結果を次年度の予算編成方針としてきた。今回については、その結果と今2024年度着地見込みとの比較により、従来通りその結果をそのまま予算編成方針とした。内容について11月の常任理事会にて報告した。

◎予算編成方針:【当年度収支差額1億円】を目指す。

2. 2025年度予算概要

(損益計算書、尚、文中の前年度見込みについては2024年1月時点における見込である。)

(1)事業活動収支計算書(損益計算書)

・【収入合計】は1,283億円(2024年度見込比+43億円)、【支出合計】は1,281億円(2024年度見込比+48億円)、【当年度収支差額(最終損益)】は2億円(2024年度見込比▲4億円)となり、予算編成方針の【当年度収支差額(最終損益)1億円】にかなり近づいた。

・【医療収入】は1,170億円(2024年度見込比+46億円)、【医療経費】は490億円(2024年度見込比+13億円)、【医療収支】は、680億円(2024年度見込比+33億円)となり、【医療経費率】は41.9%(2024年度見込比▲0.5%)。尚、病床稼働率の目標は81.4%と2024年度見込比4.4%のupとした。病院以外の教育研究関連の領域では支出合計36億円、内外部資金でカバーされる金額は24億円、よって外部資金でカバーされない部分は12億円となるが2024年度見込比+2億円の水準。

・その他では【減価償却費】は103億円(2024年度見込比+13億円、内第三病院リニューアルに関する投資コスト+10億円)、【人件費】は447億円(2024年度見込比+4億円)、【委託費】は106億円(2024年度見込比+9億円)。

(2)活動区分資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

・施設整備活動資金支出

2025年度の施設整備活動資金支出予算は243億円(2024年度見込比+89億円)と、2024年度比で大きく増加する予算となっている。主な増加要因は以下の通り。

✓建物22億円(同比+7億円):第三病院リニューアル関連(加えて2024年度と同額程度の建設仮勘定として97億円の支払いあり。)

✓医療器械87億円(同比+68億円):(本院)放射線関連6億円、三次救急関連0.9億円(第三)リニューアルに伴う医療器械全般の更新49億円。(葛飾):医療器械全般の更新11億円。(柏)循環器用X線診断装置4億円等。

✓システム26億円(同比+9億円):(第三)電子カルテ更新15億円等。

・全体の資金繰り

上述の通り、施設整備活動資金支出は減価償却費予算103億円を上回る規模である243億円となるが、2024年度に続き第三病院のリニューアルに関する支払いが建物100億円、医療器械で50億円が予定されていることが主な要因である。2025年度末の現預金残高については、2024年度末見込み521億円から約156億円減少し365億円程度となる見込み。

加えて、有価証券は340億円前後の残高を維持する見込であることから、2025年度末の現金・預金・有価証券の合計残高は約705億円となる見込である。

尚、2025年度は現段階では銀行借入を予定していない。

財務報告

2025年度(令和7年度)事業活動収支予算書 (単位:百万円)

自 2025年4月1日
至 2026年3月31日

科目	支出の部					収入の部					
	2024年度予算	2024年度見込	2025年度予算	前年度予算比	前年度見込比	2024年度予算	2024年度見込	2025年度予算	前年度予算比	前年度見込比	
【教育活動支出】						【教育活動収入】					
人件費	45,136	44,745	45,166	30	422	授業料その他収入	3,122	3,054	3,095	▲27	41
人件費	43,125	42,691	43,314	189	624	寄付金	699	645	614	▲85	▲31
退職給付引当金繰入額	2,011	2,054	1,852	▲159	▲202	特別寄付(教育)	214	138	129	▲85	▲8
						一般寄付(教育)	485	508	485	0	▲23
奨学金	87	91	98	11	7	補助金	3,760	4,178	3,933	173	▲244
医療経費	46,812	47,645	48,999	2,187	1,354	国庫補助(教育)	3,465	3,783	3,465	0	▲317
消耗品費	2,579	2,547	2,791	212	244	地方補助(教育)	295	395	468	173	73
委託費	9,894	9,700	10,554	660	854	医療収入	112,976	112,366	116,976	4,000	4,610
光熱水費	3,282	3,266	3,053	▲229	▲213	雑収入	2,901	3,214	3,110	209	▲104
営繕費	1,395	1,565	1,725	330	159						
諸経費	4,369	4,398	4,939	571	541	徴収不能引当金戻入額	0	0	0	0	0
減価償却費	9,112	8,993	10,338	1,225	1,345	教育活動収入計	123,459	123,457	127,728	4,269	4,272
徴収不能額	0	0	0	0	0	教育活動収支差額	758	472	37	▲722	▲436
徴収不能引当金繰入額	34	34	29	▲5	▲5						
教育活動支出計	122,700	122,984	127,692	4,991	4,707	【教育活動外収入】					
						借入金利息	193	208	199	6	▲9
【教育活動外支出】						その他教育活動外収入	0	0	0	0	0
借入金利息	193	208	199	6	▲9	教育活動外収入計	327	415	433	106	18
その他教育活動外収入	0	0	0	0	0	教育活動外収支差額	134	207	234	100	27
教育活動外支出計	193	208	199	6	▲9	【特別収入】					
						資産売却差額	0	0	0	0	0
【特別支出】						寄付金(特別)	70	68	70	0	2
資産処分差額	139	149	221	82	72	補助金(特別)	33	45	76	43	31
災害損失	0	0	0	0	0	過年度修正額	0	0	0	0	0
過年度修正額	0	0	0	0	0	特別収入計	103	113	146	43	33
特別支出計	139	149	221	82	72	特別収支差額	▲36	▲36	▲75	▲39	▲39
支出合計	123,032	123,342	128,112	5,090	4,770	収入合計	123,889	123,985	128,307	4,419	4,322
						基本金繰入前当年度収支差額	856	643	195	▲661	▲448

2025年度(令和7年度)資金収支予算書 (単位:百万円)

自 2025年4月1日
至 2026年3月31日

科目	支出の部					収入の部					
	2024年度予算	2024年度見込	2025年度予算	前年度予算比	前年度見込比	2024年度予算	2024年度見込	2025年度予算	前年度予算比	前年度見込比	
【教育活動】						【教育活動】					
人件費	45,483	45,010	45,654	171	644	授業料その他収入	3,122	3,054	3,095	▲27	41
奨学金	87	91	98	11	7	寄付金	699	645	614	▲85	▲31
医療経費	46,812	47,645	48,999	2,187	1,354	特別寄付(教育)	214	138	129	▲85	▲8
消耗品費	2,579	2,547	2,791	212	244	一般寄付(教育)	485	508	485	0	▲23
委託費	9,894	9,700	10,554	660	854	補助金	3,760	4,178	3,933	173	▲244
光熱水費	3,282	3,266	3,053	▲229	▲213	国庫補助(教育)	3,465	3,783	3,465	0	▲317
営繕費	1,395	1,565	1,725	330	159	地方補助(教育)	295	395	468	173	73
諸経費	4,369	4,398	4,939	571	541	医療収入	112,976	112,366	116,976	4,000	4,610
減価償却費	9,112	8,993	10,338	1,225	1,345	雑収入	2,901	3,214	3,110	209	▲104
徴収不能額	0	0	0	0	0	教育活動資金収入計	123,459	123,464	127,734	4,275	4,277
徴収不能引当金繰入額	34	34	29	▲5	▲5	調整勘定(教育収入)	28	▲896	408	380	1,294
教育活動資金支出	113,901	114,224	117,813	3,912	3,589	教育活動資金収支差額	9,723	8,003	10,506	783	2,503
調整勘定(教育支出)	▲137	351	▲176	▲39	▲527						
【施設整備活動】						【施設整備活動】					
固定資産	0	0	0	0	0	補助金(施設)	33	45	76	43	31
土地	0	0	0	0	0	寄付金(施設)	70	68	70	0	2
建物	1,686	1,459	2,192	506	734	資産売却収入	0	0	0	0	0
設備	7	4	7	0	2						
教具	2,079	2,119	3,173	1,094	1,054	【その他の活動】					
教具	373	441	564	191	123	借入金	10,000	0	0	▲10,000	0
システム	1,706	1,677	2,609	903	932	長期未払金	0	0	0	0	0
医療器械	2,704	1,952	8,712	6,008	6,760	有価証券売却収入	0	0	0	0	0
一般備品	185	127	411	225	283	有価証券償還収入	4,500	7,000	2,000	▲2,500	▲5,000
車両	0	0	0	0	0	受取利息・配当金	327	408	426	99	18
図書	31	31	35	5	5	収益事業収入	0	0	0	0	0
放射性同位元素	0	0	0	0	0	過年度修正収入	0	0	0	0	0
構築物	11	9	93	82	84	その他の収入	22	23	29	7	6
建設仮勘定	9,751	9,724	9,701	▲50	▲23	【施設整備活動資金収入計】	103	113	146	43	33
施設整備活動資金支出計	16,454	15,424	24,324	7,870	8,899	調整勘定(施設入金)	0	▲26	13	13	39
調整勘定(施設支出)	322	486	240	▲82	▲245	施設整備活動資金収支差額	▲16,673	▲15,823	▲24,405	▲7,732	▲8,582
【その他の活動】						【その他の活動】					
借入金等返済	1,779	1,779	1,307	▲472	▲472	借入金	10,000	0	0	▲10,000	0
有価証券購入	4,500	9,305	2,000	▲2,500	▲7,305	長期未払金	0	0	0	0	0
引当金等繰入	0	0	0	0	0	有価証券売却収入	0	0	0	0	0
借入金利息	193	208	199	6	▲9	有価証券償還収入	4,500	7,000	2,000	▲2,500	▲5,000
過年度修正支出	0	0	0	0	0	受取利息・配当金	327	408	426	99	18
その他の支出	1	7	4	3	▲3	収益事業収入	0	0	0	0	0
予備費	700	0	700	0	700	過年度修正収入	0	0	0	0	0
【その他の活動資金支出計】	7,173	11,299	4,210	▲2,962	▲7,089	【施設整備活動資金収入計】	103	113	146	43	33
調整勘定(他支出)	0	0	0	0	0	調整勘定(施設入金)	0	▲26	13	13	39
支出合計	137,713	141,784	146,412	8,699	4,627	施設整備活動資金収支差額	▲16,673	▲15,823	▲24,405	▲7,732	▲8,582
						【その他の活動】					
借入金	10,000	0	0	▲10,000	0	借入金	10,000	0	0	▲10,000	0
長期未払金	0	0	0	0	0	長期未払金	0	0	0	0	0
有価証券売却収入	0	0	0	0	0	有価証券売却収入	0	0	0	0	0
有価証券償還収入	4,500	7,000	2,000	▲2,500	▲5,000	有価証券償還収入	4,500	7,000	2,000	▲2,500	▲5,000
受取利息・配当金	327	408	426	99	18	受取利息・配当金	327	408	426	99	18
収益事業収入	0	0	0	0	0	収益事業収入	0	0	0	0	0
過年度修正収入	0	0	0	0	0	過年度修正収入	0	0	0	0	0
その他の収入	22	23	29	7	6	その他の収入	22	23	29	7	6
【その他の活動資金収入計】	14,849	7,431	2,455	▲12,394	▲4,976	【その他の活動資金収入計】	14,849	7,431	2,455	▲12,394	▲4,976
調整勘定(他入金)	0	0	0	0	0	調整勘定(他入金)	0	0	0	0	0
収入合計	138,438	130,096	130,757	▲7,681	661	収入合計	138,438	130,096	130,757	▲7,681	661
支払資金増減額	726	▲11,688	▲15,654	▲16,380	▲3,966	支払資金増減額	726	▲11,688	▲15,654	▲16,380	▲3,966
前年度繰越支払資金	63,796	63,796	52,108	▲11,688	▲11,688	前年度繰越支払資金	63,796	63,796	52,108	▲11,688	▲11,688
翌年度繰越支払資金	64,522	52,108	36,453	▲28,068	▲15,654	翌年度繰越支払資金	64,522	52,108	36,453	▲28,068	▲15,654

Notice

生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター

慈恵医大 生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

月例セミナー

- 開催日時 第2土曜日(4月、6月、11月)
16:00~18:00
- 場所 附属病院(本院)
中央棟3階会議室

第271回

- 月日 2025年11月8日(土)
 - 時間 16:00~17:00
 - テーマ いま話題の夜間頻尿、その病態と治療について
 - 演者 泌尿器科 古田 昭
 - 時間 17:00~18:00
 - テーマ 加齢性難聴 ~最近の知見と対策~
 - 演者 耳鼻咽喉・頭頸部外科 櫻井 結華
- 注)一部変更することもあります。

第44回慈恵医大夏季セミナー 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携 フォーラム

- 日時 2025年9月25日(木)
19:00~20:30
- テーマ 「日常診療で知っておきたい最新治療」

お問合せ先:生涯学習センター
TEL:03-3433-1111(大代表)内線2634

附属病院(本院)

心肺蘇生法 AED 使用法講習会

- 開催日時 2025年10月16日(木)
12:00~13:00
- 場所 慈恵大学病院
外来棟1階カンファレンス室
- 参加費 無料
- 申込方法 詳細は病院HPのTOPICSに掲載予定

お問合せ先:慈恵大学病院 管理課 PUSHコース担当者
TEL:03-3433-1111(代表)

2025年度 みんなの健康教室 ~予防と備え~

- 開催時間 14:00~15:15(開場13:30)
- 場所 前半(5月、7月、9月)
外来棟1階カンファレンスルーム
後半(11月、1月、3月)
みなと保健所8階大会議室
〒108-0073 東京都港区三田1-4-10
- 進行 患者支援・医療連携センター 副センター長
腎臓・高血圧内科 講師/診療医長
松尾 七重

第3回

- 月日 2025年9月20日(土)
- テーマ 「認知症予防」について、一緒に考えてみましょう
- 演者 教授/精神神経科 診療副部長
品川 俊一郎 先生
- テーマ 認知症予防 ~脳とからだのストレッチ~
- 演者 看護師 赤間 美穂
認知症看護認定看護師

第4回

- 月日 2025年11月15日(土)
- テーマ 肺癌と喫煙に関するウソ、ホント ~COPDから発がんまで~
- 演者 呼吸器外科 講師/診療医員
木下 智成 先生
- テーマ みんなに必要な健診。健診を利用しよう!
- 演者 看護師 佐藤さとみ

第5回

- 月日 2026年1月17日(土)
- テーマ 血圧が高いのを放っていませんか? 迫り来る慢性腎臓病の恐怖とその対策としての血圧管理
- 演者 腎臓・高血圧内科 助教/診療医員
菅野 直希 先生
- テーマ 血圧管理のための食事療法
- 演者 管理栄養士 笹谷 実南

第6回

- 月日 2026年3月7日(土)
- テーマ 薬の適切な管理、服用方法のポイントと抗がん剤治療の進歩
- 演者 薬剤師 長澤 京太郎

お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室
TEL:03-5400-1202(直通)

柏病院

医療連携フォーラム

- 日時 2025年10月28日(火)
- 場所 ザ・クレストホテル柏

2025年度 第2回 市民公開講座

- テーマ 「認知症ってなんだろう? 理解を深め認知症の人を支えよう~」
- 日時 2025年10月25日(土)
13:30~15:00
- 場所 多目的会議室

2025年度 第3回 市民公開講座

- テーマ 「持病がある方の防災対策(仮)」
- 日時 2026年1月24日(土)
13:30~15:00
- 場所 慈恵医大柏病院内(詳細未定)

お問合せ先:柏病院管理課
TEL:04-7164-1111(大代表)内線2184

葛飾医療センター

第62回 公開セミナー

- 日時 2025年9月13日(土)
14:00~15:30
- 場所 葛飾医療センター 5階講堂
- テーマ 歯科と健康について

第63回 公開セミナー

- 日時 2026年2月14日(土)
14:00~15:30
- 場所 葛飾医療センター 5階講堂
- テーマ 未定

お問合せ先:葛飾医療センター 管理課
TEL:03-3603-1111(大代表)内線5911

Notice

生涯学習・公開セミナー等

第三病院

2025年度 市民公開講座

膝と股関節が痛い!
~自然な動き・自然な毎日へ~

- 日時 2025年9月6日(土)
14:00~15:00
- 場所 看護学科大講堂
- 講演1 「人工膝関節に新しい選択肢 ~あなた本来の膝にもう一度~」
整形外科
山口 雅人
- 講演2 「筋腱を温存した人工股関節置 ~スポーツ復帰を目指して~」
副院長/整形外科 診療部長
藤井 英紀

- 参加費 無料
- 申込方法 事前申込制



お申込み▶

2025年度 市民公開講座

止まる体、止まらない後悔
~脳卒中はある日突然に~

- 日時 2025年11月1日(土)
14:00~15:00
- 場所 看護学科大講堂
- 演者 医療連携室長
脳神経内科 診療部長
仙石 謙平

- 参加費 無料
- 申込方法 事前申込制



お申込み▶

お問合せ先:医療連携室
TEL:03-3480-1151(代表)内線3804

慈恵ガジュまる教室 「認知症」その実際と予防 ~知って・防いで・つながって~

- 日程 2025年9月27日(土)

慈恵ガジュまる教室 腰痛予防・改善のために ~自分達でできること~

- 日程 2025年10月18日(土)

慈恵ガジュまる教室 より健康的な皮膚づくりとスキンケア

- 日程 2025年11月22日(土)

※公開講座の内容や開催内容については、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

お問合せ先:慈恵第三健康推進センター事務局
E-mail:jikeihopcenter@jikei.ac.jp

慈恵医師会

慈恵医師会産業医研修会

2026年1月、6月に開催を予定しています。
(主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会

お問合せ先:慈恵医師会
TEL:03-3433-1111(大代表)内線2636

お問合せ先:看護学科 学事課
E-mail:janp@jikei.ac.jp

Notice

プレスリリース

(2024.12~2025.6)

ホームページでもご覧いただけます
https://www.jikei.ac.jp/press/



配信日	タイトル	発信者
2024 12/6	キャラクター活用による病院内での心地よい空間づくりの取り組み 慈恵医大 キッズコンフォートプロジェクト こどもたちにやさしい空間づくり	東京慈恵会医科大学附属病院
12/10	アレルギー感作に関連する遺伝子領域を発見	分子遺伝学研究部 廣田朝光准教授
2025 1/7	骨リモデリング因子Fam102aが骨代謝を制御するメカニズムを解明 —骨代謝のバランスを回復する新しい治療標的としての可能性に期待—	整形外科講座 斎藤充 講座担当教授、山下祐助教
1/9	慢性腎臓病の診断に尿アルブミン/クレアチニン比(UACR)が高い費用対効果	内科学講座(腎臓・高血圧内科) 横尾隆講座担当教授
1/16	重症呼吸不全患者6万6千人を対象に調査、認定施設では重症呼吸不全患者に「科学的根拠に基づいた治療」を多く実施 ～死亡率が7%低い結果に～	救急医学講座・附属柏病院集中治療部 吉田拓生准教授
2/3	東京慈恵会医科大学附属第三病院のリニューアル事業 新名称案「(仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センター」を選定	学校法人 慈恵大学
2/5	U-FactorR液による治療薬開発を目指す株式会社U-Factorが東京慈恵会医科大学と第二弾の共同研究契約を締結～臓器虚血性疾患に関する研究を実施	再生医学研究部 岡野 James 洋尚教授
2/19	東京慈恵会医科大学附属第三病院のリニューアル事業 (仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センター 新本館新築工事「上棟式」挙行	学校法人 慈恵大学
3/3	臨床研究プロフェッショナル育成のための医学教育フォーラムを3月22日に開催 本学2号館講堂(新橋)で参加無料	臨床薬理学講座・研究推進センター 志賀剛教授
3/4	世界初、小児の腎臓のネフロン数を生体で推算することに成功 —将来の腎機能を予測する新たな指標として期待—	小児科学講座 平野大志講師、坂口晴英助教、大石公彦講座担当教授、内科学講座(腎臓・高血圧内科)神崎剛助教、坪井伸夫准教授
3/4	ビタミンDサプリメントの連日摂取が風邪から気管支肺炎までの急性気道感染症の発症を16%減少させる 国際共同研究による約5万人を対象とした解析で明らかに	分子疫学研究部 浦島充佳教授、内科学講座(腎臓・高血圧内科)中島章雄助教
3/11	青森体操(ねぶた祭の要素を組み込んだ新たな運動プログラム)を通じて、サルコペニア(加齢による筋肉量・筋力低下)の高齢女性の身体機能が改善・向上	リハビリテーション医学講座 安保雅博講座担当教授、吉田健太郎助教、増田和明助教
3/11	ヒト消化管からの尿酸分泌を世界で初めて測定 —痛風・高尿酸血症治療の重要なターゲットとして小腸ABC2に注目—	内科学講座(消化器・肝臓内科)猿田雅之講座担当教授、宮崎亮佑助教、櫻井俊之講師、基盤研究施設 岩本武夫教授
3/12	世界初の核酸医薬(SSO)による小児難病シトリン欠損症の治療法を開発 ～遺伝性疾患に向けた、新たな根本治療への挑戦～	小児科学講座 大石公彦講座担当教授、今川英里特任講師
3/18	高効率・迅速・安全な手法による腎不全モデルマウスの開発に世界で初めて成功 ～慢性腎臓病の病態解明、異種移植や再生医療に新たな可能性～	内科学講座(腎臓・高血圧内科)山中修一郎助教(兼任:プロジェクト研究部腎臓応用再生医学研究室 室長)、松井賢治助教、横尾隆講座担当教授
3/28	胎子の腎臓を移植した成体のラットの1ヶ月間の生命維持に成功 ～胎子腎臓の移植用臓器としての有用性を証明～	内科学講座(腎臓・高血圧内科)横尾隆講座担当教授、山中修一郎助教、木下善隆研究員、腎臓再生医学講座 小林英司教授
3/28	子宮内胎子に移植した胎子腎臓による継続的な尿の生産を実証 ～異種間の移植でも腎臓が発育したことを確認～	内科学講座(腎臓・高血圧内科)森本啓太博士課程学生、山中修一郎助教、横尾隆講座担当教授
4/1	痛みが生じているときの脳の活動を可視化するfMRI技術を世界で初めて開発 ～扁桃体のリアルタイムの活動計測に成功～	研究実習生 今村彩子(筑波大学グローバル教育院大学院生)、非常勤講師 釣木澤朗和(産業技術総合研究所・主任研究員)、神経科学研究部 高橋由香里講師、加藤総夫名誉教授
4/8	がん細胞を移植したマウスでは「活動—休止リズム」が昼夜逆転することを発見	疼痛制御研究講座 野中美希特任講師
4/9	ホルマリン固定後のブタ腎移植検体を安全に輸送するためのプロトコルを開発	泌尿器科学講座 山本修太郎 医学系専攻 博士課程学生、木村高弘講座担当教授、腎臓再生医学講座 小林英司教授、
4/30	一般市民による心肺蘇生の有効性を、関東42病院の大規模臨床研究データで検証	救急災害医学講座 田上隆講座担当教授、北野信之介助教
5/21	多職種によるケアの質が家族介護者の介護への向き合い方に影響 —質の高いケアを受けているほど、介護に対する肯定的な認識が高まる—	臨床疫学研究部 松島雅人教授、富田詩織訪問研究員、青木拓也准教授
5/21	クミン摂取による性差を伴う体組成および脂質代謝の改善効果を確認 ～スライスの効果に男女差の可能性～	リハビリテーション医学講座 鈴木慎助教、安保雅博講座担当教授
5/26	H1抗ヒスタミン薬の注意すべき副作用と発症時期を特定 ～日本人リアルワールドデータを用いて調査～	医学部医学科5年生 高塚美都子、臨床薬理講座 志賀 剛教授、橋口 正行教授
6/2	治療タンパク質を脳へ輸送する新たな遺伝子治療法を開発 ～根治療法のない神経変性疾患モデルマウスの治療に成功～	遺伝子治療研究部 松島小貴助教、飯塚佐代子研究補助員、樋口孝講師、嶋田 洋太准教授、小林 博司教授、看護学科 健康科学疾病治療学 大橋十也教授、臨床医学研究所 永嶋宇助教、渡部 文子教授
6/17	トゥモロー・ネットと慈恵医大、AIボイスボット、LLMを活用した医療業務支援の共同研究を開始	人工知能医学研究部 中田典生教授
6/20	「アウトティング」が性的マイノリティのメンタルヘルス悪化に関連することを解明 ～性的マイノリティの9.3%が「アウトティング」を経験～	臨床疫学研究部 金久保祐介博士研究員、杉山佳史講師、吉田絵理子訪問研究員、青木拓也准教授、医学部看護学科 務基理恵子准教授

Notice

院内表彰受賞者

(2024.12~2025.5)

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由	
2024.12	産婦人科	医師	産婦人科一同	患者満足度向上に資する表彰制度 (患者満足度向上委員会)	
2024.12	11H病棟(看護部)	11H病棟一同(看護師)	11H病棟一同(看護部)		
2024.12	13H病棟(看護部)	13H病棟一同(看護師)	13H病棟一同(看護部)		
2025.1	栄養部	栄養部	栄養部一同		
2025.1	7H病棟(看護部)	7H病棟一同(看護師)	7H病棟一同(看護部)		
2025.1	9H病棟(看護部)	9H病棟一同(看護師)	9H病棟一同(看護部)		
2025.1	17H病棟(看護部)	17H病棟一同(看護師)	17H病棟一同(看護部)		
2025.1	10E病棟(看護部)	10E病棟一同(看護師)	10E病棟一同(看護部)		
2025.2	上部消化管外科	医師	増田 隆洋		
2025.2	10H病棟(看護部)	10H病棟一同(看護師)	10H病棟一同(看護部)		
2025.2	5E病棟(看護部)	5E病棟一同(看護師)	5E病棟一同(看護部)		
葛飾医療センター	2025.3	腎臓・高血圧内科	医師	木戸口 慧	「2024年度救急医療功労者」 救急医療に貢献したことによる院長表彰
	2025.3	循環器内科	医師	板倉 良輔	
	2025.3	小児科	医師	橋本 大	
	2025.3	小児科	医師	関 純令	
	2025.3	整形外科	医師	金井 知彬	
	2025.3	耳鼻咽喉・頭頸部外科	医師	渡邊 雄太	
附属第三病院	2024.12	多職種連携推進委員会	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・栄養士・臨床工学技士・診療放射線技師・事務	勝沼俊雄、川島雅晴、佐々木朝麻、奥村静、安藤隆、大越一代、小川篤美、小田悠樹、中山海、岡田仁美、東美佐紀	成医会第三支部例会ポスター発表表彰 (院長賞)
	2024.12	中央検査部、循環器内科	医師・臨床検査技師	縄手里彩、春野一紗、加藤汐美、柴田香菜子、下條文子、安井まゆみ、鳥塚純子、星野陽子、阿部正樹、小笠原洋治、香山洋介	成医会第三支部例会ポスター発表表彰 (成医会賞)
	2025.3	総合診療部	医師	西村 優樹	救急医療業務功労者表彰
	2025.3	腫瘍・血液内科	医師	中村 達也	
	2025.3	循環器内科	医師	宮永 哲	
	2025.3	管理課	事務員	佐藤 壮亮	チーム医療業務功労者表彰
	2025.3	栄養部	管理栄養士	松村 暁	
	2025.3	栄養部	管理栄養士	大沼 未奈	
	2025.3	身体拘束最小化ワーキンググループ	-	-	ベストホスピタリティ賞表彰
	2025.3	糖尿病・代謝・内分泌内科	医師	本澤 訓聖	
2025.3	外科	医師	佐々木 茂真		

Notice

寄付のお願い

平素より本学に対しまして
ご支援、ご協力を賜り、
心から厚く御礼申し上げます。

2024年度は新型コロナウイルス感染症も収束しましたが、一方でポストコロナにおいて患者の受診行動も変化しており患者数減少に加え物価上昇や働き方改革など難しい環境が続いています。

第三病院については2026年1月にリニューアルオープンし名称も「西部医療センター」となる予定です。本学は今後も一貫して教育、研究、医療の充実を図っていき社会に貢献していくための様々な取り組みを行って参ります。本学として変化していく社会や環境に対応していくことが大変重要であり、環境整備のための多くの資金が必要となります。引続き自助努力を重ねて参りますが、資金の調達も限りがあります。

皆様には、引続きご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナーズボードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱いとなります。

Notice

寄付のお願い

寄付者名簿

・2024年11月1日～2025年5月31日の寄付者

● 企業等

医療法人社団
レディースクリニック京野
理事長 京野廣一

株式会社慈恵実業
代表取締役社長
石塚雄三

株式会社世田谷自然食品
代表取締役 河西英治

公益社団法人 地域医療振興協会
東京北医療センター
管理者 宮崎国久

はらメディカルクリニック

● 同窓生

医療法人社団オーケーエム会
オーククリニックフォーミズ病院
理事長 森本紀

医療法人社団如水会
嶋田英敬

医療法人親和会
理事長 宮永威彦

銀座 慈秀会クリニック
中田秀二

赤岡宗紀
荒井秀一

内田満
後藤健吉
高橋恒夫
天神幸代
天神光充
萩原正則
橋本朋子
服部哲
浜口欣一
益子貴博
松浦知和
三戸岡克哉
柳垣充

● 同窓会支部会・クラス会

慈恵59会

第100回医学科卒業生一同

● 父兄

岡野敏明
加来一郎
坂井幸治
武見仁

田中俊英
土屋慎一
保科孝行
武藤文朗
吉田江理

● 一般個人

伊藤博
稲田晴生
井上天宏
井上正裕
白井聖
堅山壽子
兼田和典
鹿山恵美
鬼頭梢
木村和平
齋藤悠
佐藤ひろみ
佐野雄太
鈴木正勝
須藤きよ江・須藤真由美
高橋則子
立川かおり
中嶋啓吾
橋本政昭
松平早苗
松原靖広
村上博
森田和明
山本澄子

※クラウドファンディングによるご寄付は除いています。

ガバナンス

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

(目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基つき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、地域のかかりつけ医と当院の医師が互いに連携し、共同で継続的に治療を行う「2人主治医制」を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL 03-5400-1202(直通)
FAX 03-5401-1879(直通)



葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145
FAX 03-3690-7474(直通)



第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
TEL 03-3430-3600(直通)
FAX 03-3430-3611(直通)



柏病院

患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
TEL 04-7167-9680(直通)
FAX 04-7164-1197(直通)

[表紙の人]



炭山 和毅

Kazuki Sumiyama

東京慈恵会医科大学
内視鏡医学講座担当教授



内視鏡的早期消化管癌切除術の海外ライブデモ

「学と術と道」

私は、臨床において患者さんに喜んでいただけることが、最も大切であると考えています。中高の大先輩でもあり、慈恵医大元学長の阿部正和先生は、臨床医学について「学と術と道」という言葉を残されています。私は、この言葉を噛みしめ、後輩にも伝えていきます。未来の多くの人の役に立てるよう、他の人が再現できる客観的評価に耐え得るものとする「学」。先人が確立した技術を学び、その方法を習得することで患者さんを診る基礎ともなる「術」。人道や自分の技を極め、個の力を追求するために主体的に努力し続ける「道」。医師には、この3つの素養が求められていると解釈しています。私自身、その実践が医師としてのやりがいであり、生きがいであると感じています。

例えば、学術的データとして成功する確率が90%の手術だとしても、残念ながら、10%の失敗にあたってしまえば、その患者さんにとっての失敗率は100%です。医療は、このように確率や学問では割り切れないものなので、学と術と道の全てを持って臨むことが必要なのだと思います。

臨床で患者さんと過ごす時間から、疑問や課題が見つかり、それが研究テーマとなって学問になります。その研究が臨床で患者さんのお役に立つことができれば最高だと考えています。



東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部
<https://www.hosp.jikei.ac.jp/diagnosis/department/510.html>



編集後記

本号より法人広報誌『The JIKEI』の編集責任者を務めることになりました学校法人慈恵大学常務理事・法人広報委員会委員長 山本裕康でございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

今号の表紙では、内視鏡分野で国内初のさまざまな取り組みを牽引してきた炭山和毅教授をご紹介します。特集では、関東大震災で大きな被害を受けた本学の再建に尽力した金杉英五郎 初代学長の記事を掲載しています。また、本学附属の第三病院が、来年1月に(仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センターとしてリニューアルオープンを迎えるにあたり、現時点の最新情報もお届けしています。

慈恵大学では、研究・教育・診療のそれぞれの分野で、学祖が目指した建学の精神が次代へ脈々と引き継がれています。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観ならびに方向性を共有することを目的に、これからも発展し続ける本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長 山本 裕康

略歴

- 1998年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業
- 2003年 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科博士課程修了
東京慈恵会医科大学内視鏡科助手
- 2005年 米国Mayo Clinic College of Medicine留学
- 2007年 東京慈恵会医科大学附属青戸病院内視鏡部診療医員
- 2008年 東京慈恵会医科大学附属病院内視鏡部診療医員
- 2012年 東京慈恵会医科大学内視鏡科講師
- 2015年 東京慈恵会医科大学内視鏡科教授
- 2018年 東京慈恵会医科大学内視鏡医学講座担当教授

資格

- 日本内科学会認定内科医
- 日本消化器内視鏡学会専門医・日本消化器内視鏡学会指導医
- 日本消化器病学会専門医・日本消化器病学会指導医
- 日本消化管学会胃腸科専門医・日本消化管学会胃腸科指導医
- 日本カプセル内視鏡学会認定医
- 東京都難病指定医

所属学会

- 日本内科学会
- 日本消化器内視鏡学会
- 日本消化器病学会
- 日本内視鏡外科学会
- 日本消化管学会
- 日本コンピュータ外科学会
- 日本胃癌学会
- 日本カプセル内視鏡学会
- 日本平滑筋学会
- 日本腹部救急学会
- 日本成人病学会
- 日本膵臓学会
- 日本食道学会
- 日本肥満症治療学会
- 日本カプセル内視鏡学会
- 日本ヘリコバクター学会
- 日本大腸検査学会
- 大腸癌研究会
- The American Society of Gastrointestinal Endoscopy

発行 学校法人 慈恵大学
 発行人 理事長 栗原 敏
 連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
 学校法人 慈恵大学 広報課
 TEL 03-3433-1111(大代表)
 FAX 03-5400-1281
 e-mail koho@jikei.ac.jp
 号数 第44号
 発行日 2025年8月1日

<https://www.jikei.ac.jp/>